

# コミュニティ評価委員会

## 報告書

平成16年3月

武蔵野市

武蔵野市長 土 屋 正 忠 様

武蔵野市コミュニティ評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、平成15年3月26日に武蔵野市コミュニティ条例に基づき、土屋武蔵野市長より委嘱を受け、コミュニティ協議会（以下「協議会」という。）（公共的団体）のコミュニティづくりについて評価を行いました。この度、評価の結果がまとまりましたので、ここにご報告します。

評価活動としては、最初に、東西二ヶ所の会場で各協議会と評価委員との懇談会を開き、評価の原則の確認をしながら評価についての理解を深めました。次に、協議会の意見を取り入れながら評価委員会が作成した「自己点検・評価表」の観点を基に、各協議会の運営委員会で運営委員が過去の活動を振り返りながら今後の活動について語り合い、その結果を評価委員会に返却してもらい評価の資料にしました。

同時期に、コミュニティセンターの利用者及び一般市民に無記名でアンケート調査を行い郵送で回収し直接市民の意見を聴取しました。また、市の各種データを分析し各協議会の地域特性の調査も行いました。

最終段階では、三地域に分かれて実施した意見交換会で「自己点検・評価表」を基に各協議会の運営委員から運営についての意見や活動報告を聞き意見交換を行いました。

協議会の活動内容はその地域の特性により異なり、活動の構成も様々です。また、各協議会のコミュニティ活動を数値化して把握することも困難です。そのため、16の協議会を数値で一律に表す評価基準はなじまないため、武蔵野市の協議会活動に応じた評価方法を評価委員会で考えコミュニティ評価を実行しました。評価の内容については、これまでの活動実績をふまえた上で、第三者としての評価委員会が、各協議会への今後の活動に向けたアドバイスといった性格にし、各協議会はそのアドバイスを目標に改善していけるようにまとめました。

また、今回の評価活動で評価委員会が注意したことは、今までの活動実績を尊重しながらも、その地域の本来のコミュニティ活動とは何なのか、地域コミュニティをより活性化させる方法についてであります。

本報告書が武蔵野市のコミュニティの活性化の指針となり、また、各協議会のさらなる発展に反映されることを願ってやみません。

平成 16 年 3 月 2 日

#### 武蔵野市コミュニティ評価委員会

委員長 玉野 和志

副委員長 武智 秀之

委員 小美濃 純彌

荒川 澄子

皆川 栄司

田中 雄一

檜山 啓示

# 目 次

はじめに	1
1. タイプ別コミュニティの特徴	3
①交流型	3
②課題解決型	4
③起業・事業型	5
2. 共通課題	6
①運営委員・協力委員の確保	6
②コミュニティ活動や施設管理への参加・促進	6
③窓口対応の工夫	7
④利用の制限	8
⑤参加の原則（会則）	8
⑥事業・企画の工夫	8
⑦コミュニティのあり方	9
3. 各コミュニティ協議会の評価と課題	10
①吉祥寺東コミュニティ協議会	10
②本宿コミュニティ協議会	10
③吉祥寺南町コミュニティ協議会	11
④御殿山コミュニティ協議会	11
⑤本町コミュニティセンター協議会	11
⑥吉祥寺西コミュニティ協議会	12
⑦吉祥寺北コミュニティ協議会	12
⑧けやきコミュニティ協議会	12
⑨中央コミュニティ協議会	13
⑩西久保コミュニティ協議会	13
⑪緑町コミュニティ協議会	13
⑫八幡町コミュニティ協議会	14
⑬関前コミュニティ協議会	14
⑭西部コミュニティ協議会	14
⑮境南コミュニティ協議会	14
⑯桜堤コミュニティ協議会	15
4. コミュニティ評価委員会委員	16
資料	17
(1)コミュニティ評価活動内容・日程	18
(2)コミュニティ地区ごとの人口・事業所数の集計結果	20
(3)市民アンケート調査結果	34

## はじめに

今回の評価活動は、コミュニティに自主的に参加している武蔵野市民が、自らの活動のあり方を、より広い意味での武蔵野市民にとっての公的な立場から見直すことを目的としている。そのことを前提にわれわれ評価委員会がまとめたこの報告書の意味と活用について最初に触れておきたい。

今回は、各コミュニティ協議会において自己点検・自己評価を行う手法をとったが、これは、評価委員会が、この自己点検・自己評価活動をもとに、市民自らがより豊かな活動を展開していくうえで必要な方策を、少なくとも示唆することはできるのではないかと考えるにいたったからである。

そこで、この報告書では次のような構成と意図で、評価委員会としての独自の工夫を試みた。「1. タイプ別コミュニティの特徴」では、コミュニティが活動を展開していくうえで、とりあえず別個の方向性をもつ要素として3つのタイプが存在することを示している。これは各コミュニティが自らの活動の特徴と課題を整理し、その解決に向けてどのコミュニティのどんな側面を参照すべきかを考えるうえで、一般的な指針となるものである。

このような整理の枠組を前提としたうえで、「2. 共通課題」では各コミュニティに共通する課題を指摘・考察し、その解決策として少なくともはっきりとした成果が出ている方策について具体的に確認・紹介している。この部分はすでに自己評価の活動を通じて明らかになってきたことではあるが、改めて確認する意味でご参照いただければ幸いである。

さらに、「3. 各コミュニティ協議会の評価と課題」ではあえて個々のコミュニティ協議会の現状について、評価委員会としてのコメントを掲載した。この点についてはぜひともその主旨を正確にご理解いただき、有効に活用してもらいたい。あえてこのようなコメントを付したのは、評価委員会としての激励の意味やぜひとも考えてもらいたい点、困難を克服するために何か良い方策はないかという点で、少しでもヒントを与えることはできないかという思いを込めてのことである。各協議会においては自分たちが自分たちの活動を考えていくうえでの、参考意見のひとつとして受け取ってもらい、自らの活動の励みとしてもらえるならば幸いである。

以上は、主としてコミュニティ協議会を念頭においた場合の報告書の主旨と活用法である。しかし、評価委員会の報告書はそれに留まるものではない。当然ながら武蔵野市民全体にとって果たすべき責任がある。その点では、以下に武蔵野市全体の地域的な概況とそれともなう各コミュニティの状況、それぞれの地区が抱えている独特の課題について、紹介しておきたい。また、我々が整理したデータや市民アンケート調査の結果が、資料として示してある。武蔵野市民が市の政策としてのコミュニティを評価していく際に、その基本的な状況を理解するうえでも、この報告書は適切な題材を提供しようとするものである。

それでは、今回の評価活動を通じて明らかになってきた武蔵野市の概況と各コミュニティ地区の現状について、簡単に紹介しておこう。

人口数の推移や事業所数の推移の集計結果を見るかぎり、武蔵野市は一方における堅実な都市的発展と、総体としてみた場合の安定した住宅地としての性格を維持し続けているといえる。コミュニティ地区ごとで集計した場合、桜堤の地区における主として公団の建替えにともなう人口の減少が目立つ程度で、きわめて安定した人口の推移を示している。したがって、全般的には高齢化の進行が心配されるとはいえ、鉄道の沿線地区や市の西よりの地域においては若年ファミリー層の流入が決して少なくない。何よりも大きな特徴は、吉祥寺駅周辺を中心とした堅実な都市的発展の継続という点である。吉祥寺は下北沢や自由が丘と並んで、若者の注目を集める東京の新しい拠点地区としてその地位を築いてきた。そのことは我々が行った単純な集計結果においても、飲食店などの事業所数の順調な発展や、吉祥寺というブランドに引き寄せられた若い単身者や夫婦のみ世帯の流入によって、武蔵野市全体の活力が維持されているという結果となって現れている。

しかしながら、このような武蔵野市全体にとっての順調な発展は、各コミュニティ地区にはそれぞれ独特の影響を与えている。各コミュニティ地区においては、それぞれの地区の歴史やコミュニティセンター建設の経緯もあって、きわめて多様で個性的な現実が存在するが、ここではあえて3つの地区に分けて紹介しておきたい。

1つは、吉祥寺という繁華街の発展にともない、独特の解決すべき課題を抱えてきた地区である。端的にはかつて「近鉄裏」と呼ばれ、いわゆる「ピンク街」として風俗店の集積が心配された地区である。このような地区では、環境浄化という地域的課題との関係でコミュニティ協議会の活動が展開してきた。

2つめは、やはり駅周辺の発展にともない、不特定多数の人々が集散する都市的な状況を反映して、武蔵野市民以外の人々も含めた、多様な利用者への公平なサービスを意識せざるをえない状況に置かれた地区である。駅周辺の多様な人々が集まる地域にあるコミュニティセンターは、とかく一般の公共施設と変わらないサービスの提供を求められることになる。

3つめは、鉄道沿線からは少し離れた古くからの住宅地に位置するコミュニティセンターで、駅周辺とは対照的に、特定少数の利用者を意識した運営が求められる地区である。

きわめておおまかに分けるならば、以上3つの地区によってコミュニティ協議会はまったく異なった課題と要求を突きつけられている。武蔵野市が常にその先駆的な自治体として、全国から注目を集めてきたコミュニティ行政が、その当初において主として念頭においていたのは、3つめの地区であった。移動や入れ替りはあったとしても、住民としてある程度知り合った特定少数の人々が集い交流を深めるための施設として、コミュニティセンターは想定されていた。したがって、住民自らがボランティアでその管理と運営に参加し、その地区の特性に応じた独特の利用規則を設けてきた。

ところが、2つめのような不特定多数の利用者がかなり遠方から訪れるようになると、このようなセンターごとに異なった利用細則は、同じ市の施設としてはきわめて不合理なものに見えてしまう。受付に立つ人々の対応にも、デパートの店員のような形式的な礼儀正しさが求められてしまうわけで、近所の同じ住民としての慣れ慣れしい物言いはかえってごう慢であったり、だらしなく思われてしまうのである。

以上のように、武蔵野市の近年の発展によって、コミュニティ行政が導入された時期とは異なった地域の状況が生まれ、地区によってはまったく異なった対応を余儀なくされている現状がある。各コミュニティ協議会は、まったくの住民のボランティアであるにもかかわらず、このような地域の変化にすでに様々な経験の蓄積をふまえて独自の対応を試みつつある。今回の評価委員会の活動とこの報告書によって、このような武蔵野市民の努力が広く知られることで、さらなる新しい市民の参加を促し、武蔵野市のコミュニティが新たな段階へと進んでいくことを、評価委員一同切に願うものである。

## 1. タイプ別コミュニティの特徴

上に概説したように、近年の武蔵野市の変化はコミュニティ地区にさまざまな事情の違いをもたらしている。これにともない、コミュニティの活動のあり方についても多様な現状が見出された。最初にこの点で3つのタイプのコミュニティ活動を区別することで、現実の各コミュニティの特徴を整理する視点を提供したいと思う。

ただし、以下の3つのタイプはあくまで単なる視点にすぎないので、特定のコミュニティがそのいずれかに純粹にあてはまるというものではない。すべてのコミュニティにはこの3つの要素が多かれ少なかれすべて含まれているのであって、むしろ個々のコミュニティの活動を考えるうえで、自分たちにはどのタイプの活動が足りなかったり、必要であるのかということ考察し、その場合に他のコミュニティのどの活動を見習うべきかということを見極めていくための視点として活用していただきたい。なお、念のために断っておくが、ここでの3つのタイプは「はじめに」で紹介した3つの地区と単純に関連しているわけではない。

### ①交流型

交流型のコミュニティとは、これまで最も一般的に見ることのできたコミュニティ活動である。市民のいわゆる親睦や交流を目的とした活動を意味する。このようなタイプの活動は、地域において取り組むべき緊急の課題が、それほどハッキリしていないような状況において広く受け入れられやすい。つまり、地域に取り組むべき緊急の課題が誰の目にも明らかな場合には、単なる交流よりも問題解決にむけての有効な取り組みが求められるからである。それほど緊急の課題はないが、もう少しお互い知り合っておいた方が都合がよいと思えるような、人の入れ替わりの多い団地や社宅、古くからの住宅地に徐々に新しい人が入ってきたような住宅地において、特に必要とされる活動形態である。

交流型のコミュニティにおいては、活動そのものの過程を楽しむことが重要であり、具体的な成果がどれだけ出たとか、どれだけ効率的に取り組むことができたかなどはあまり問題ではない。むしろ参加すること自体の楽しさや魅力が必要なのである。

ただし、このような交流型の活動にたいしては、どうしても交流そのものに興味の持てない人にどう働きかけていくのかという問題がついてまわる。とりわけ、最近の若い世代に見られるような、人との交流を嫌がったり、自分とは違うタイプの人との交流を楽しむことができず、似たような人々だけで固まっていたいという傾向が見られるところでは、交流型の活動そのものを負担にしか思わない場合が出てくる。このような場合には、むしろ違ったタイプのコミュニティ活動が求められるのであろう。

## ②課題解決型

そのひとつのあり方が、課題解決型のコミュニティである。このタイプの活動は地域の解決すべき共通の課題がある程度、明確である場合に有効である。活動の目的が明確であり、かつその目的が広く地域の人々にとって共通の利害と考えられる場合、人々はその利害が共通している限りで、いわば政治的に協調していくことができる。つまりここでは、気が合うとか合わないとかいう、広義の交流型の活動においては決定的な要素が、ある程度度外視できるのである。利害さえ共通していれば、日頃いろいろな意味で対立しているような人々も行動をともにすることができる。地域に様々な存在している人々や、諸団体の利害調整の活動を主とするタイプのコミュニティである。

このような、課題解決型のコミュニティ活動を維持していくためには、人々が共通の課題と認識することができ、かつ自分たちで解決可能と考えられるような問題をつねに発掘し、共有していく努力が必要である。また、少なくともその利害に関係する人々には、公的な検討の場としてコミュニティが信頼され、認められていなければならない。この点は、これまでの各地区におけるコミュニティ協議会の位置づけと実績によるもので、一朝一夕に地域から認めてもらえるものではないところにむずかしい側面がある。

また、どうしても共通の課題にそれほど切実な利害をもちえないという人もいるだろうし、そのような広義の政治的利害調整に関わること自体を嫌がる人もいるだろう。そうすると成果はさておき、活動そのものが楽しいという交流型の側面も加味していかなければならなくなる。なお、このタイプのコミュニティ活動が、本当の意味での成果を上げられるかどうかは、地域課題の解決にたいして最も強い権限を持っている行政が、実際にこれらのコミュニティ活動にどのように対応できるかにかかっている。地域の人々の利害調整を自発的に引き受けているコミュニティにたいしては、行政のみならず議員や議会も真摯な対応をしていかない限り、市民の市政への信頼はえられないことに留意する必要がある。この意味で環境浄化対策推進をめぐるコミュニティと市との協働の実績は、武蔵野市のコミュニティを考えるうえで、きわめて貴重な経験であったといえよう。



### ③起業・事業型

さて、上記2つのタイプに加えて起業型あるいは事業型のコミュニティ活動というのが、最近とみに注目されるようになってきている。武蔵野市のコミュニティでもこのような活動の展開が確認できる。これは80年代以降の民間活力の導入、民営化という時代の流れの延長線上で、市民活動も一般の事業活動と同様の手法で、取り組まれるべきであるという新しい考え方によっている。このような流れと並行して、NPO法の成立によって一挙に注目を集めるようになった、法人格を取得して民間で非営利の活動を継続的に行っていくだけの力を蓄えるようになった活動団体の存在がある。これには、社会福祉協議会や生活協同組合などの、地域での活動の蓄積と発展という背景も存在している。

このタイプの市民活動は、民間企業と同様に経営という観点を導入し、与えられた資源を最大限に効率的に活用し、具体的な成果を継続的に生み出していくという点を強調している。場合によっては、人々の交流を目的としたり地域課題の解決を指向することもあるが、それよりもそのような使命のために、いかに与えられた経営資源を活用していくかという点に力点がある。このような特徴をもって取り組まれている場合、これを起業・事業型のコミュニティ活動と呼ぶことにしたい。

このような活動形態はきわめて今日的なものであるし、これまで企業で働いていた退職者や商店街などの事業者にとっては、以前からの親睦や交流を主としたコミュニティ活動よりもなじみやすい側面があるだろう。しかし、ここではこのような活動形態にともなうきわめて重要な留意点を明示しておきたい。それは、このような組織形態においてよくいわれる「ミッション（使命）」への献身と民主的な運営への留意という点である。生活協同組合や一部のNPO組織は確かに企業経営と同様の視点をもたない限り運営しきれないほどの規模の活動を行っている。しかし、あくまでそれが営利企業としてではなく、非営利の活動として存在していることの保証は、生み出すべき成果としての公的な使命への献身と、組織としての意思決定における民主的な手続きの厳守という2点にある。もしこの部分がおろそかにされたならば、つまり、一部の人々の私的な目的のために、やはり一部のえらい人だけがその決定にあずかるということでは、人々の善意のボランティアにもとづく社会的な活動とはいえないのであって、その場合はむしろ、報酬を得て行う一般的な企業活動と異なる所はないことになる。

コミュニティ活動においても、起業・事業型の活動を行う際には、この点への留意がぜひとも必要になってくる。逆にこの点で自由な提案や行動が保障され、各自の創意・工夫が十全に生かされていくなれば、交流型でも、課題解決型でもない、まったく新しいタイプのコミュニティ活動が生み出されていく可能性があるだろう。今後、注目していくべき活動形態である。

以上、3つのタイプの活動形態を念頭に置きながら、武蔵野市のコミュニティが共通に直面している課題や、個々の協議会が取り組むべき課題、そのためにどのような成果がすでに出ており、いかなる工夫の余地があるかを考えていきたいと思う。

## 2. 共通課題

### ①運営委員・協力委員の確保

運営委員（協議委員）や協力委員の確保にはどのコミュニティ協議会も共通した悩みを抱えている。運営委員や協力委員の高齢化は企画立案や施設運営にも影響を及ぼしかねない。量的な拡大と若い年齢層の参加が、各コミュニティ協議会の共通した課題となっている。

一般的には、第1にパソコン学習会など各コミュニティセンターでの事業を通じて施設を利用した人や事業に参加した人が運営委員・協力委員となる場合、第2に小中学校のPTAや近隣大学の教員や学生、青少協、防犯団体、福祉団体などの地域ネットワークの中から運営委員・協力委員が選ばれる場合、第3に町会などの地域から運営委員・協力委員が選出される場合、の3通りがある。

どの方法であれ、人的ネットワークを積極的に形成した協議会が運営委員・協力委員の充足に成功している事例が多い。たとえば、桜堤コミュニティ協議会のように、小中学生と父母の参加できる企画をこころがけ、運営委員や協力委員の参加拡大につながった例もある。御殿山コミュニティ協議会のように、町会との連携をこころみた事例もある。けやきコミュニティ協議会や吉祥寺北コミュニティ協議会のように大学などの教育資源を有効に活用している例も見られる。ただし団体や地域からの選出方法には「自主参加」の観点からは検討すべきことも残っている。

地区割りで選出する方法は安定的に委員を確保できるメリットもあるが、それは協議会委員の人数制限につながり自主三原則と抵触する可能性も出てくるので、自由な参加が妨げられないように配慮が必要である。地区割りの選出と自由参加とのバランスを心掛けるべきかもしれない。

また、各コミュニティ協議会は各協議会の区域から運営委員や協力員を確保しているが、住所の移転で他協議会の区域に居住することもある。厳格に解釈すれば現住所のあるコミュニティ協議会で活動しなければならない。運営委員は年1回の総会で選出されるため、移転と同時に新しいコミュニティ協議会で活動はしにくいのが現状である。しかしながら、この場合にも移転直後には協力委員として活動してもらいながら、総会を経て運営委員となることも可能である。けやきコミュニティ協議会のように地域外の人でも運営委員になれる場合もある。また西久保コミュニティ協議会のように、規約に「運営委員は原則として西久保在住」とし、例外を認めている場合もある。このような例のように、運営委員・協力委員の要件は各コミュニティ協議会の事情に応じて柔軟に解釈すべきであろう。

### ②コミュニティ活動や施設管理への参加・促進

コミュニティ運営での特色は、いくつかの協議会で実行委員会方式の採用をおこなっている点である。これはコミュニティ活動の促進や負担の分散に寄与している。

たとえば、吉祥寺西コミュニティ協議会では、「あるこうかい」「映画会」「園芸クラブ」「パソコン活用」「あそぼうよ」の5つの実行委員会方式に所属して活動している

ことが特色となっている。また、けやきコミュニティ協議会でも実行委員会方式が採用されている。運営委員が「文書部」「広報部」「館の管理」「会計」「防災管理者」「市報担当」「まちづくり局」などにすべて所属して役割を分担している。まちづくり局では月1回の定例会が開催され、企画運営への参加が積極的におこなわれている。関前コミュニティ協議会でも運営委員を5つのグループに区分して事業を運営して成果を上げている。西久保コミュニティ協議会ではかつて3つの部のいずれかの部に所属しなければならなかったが、各部をオープンにして、関わりたい部へ運営委員が参加する方式を採用した。この方式も参加の促進に寄与した例のひとつである。

運営委員会の開催も、八幡町コミュニティ協議会のように平日の夜に開催するのではなく土日開催することで出席率を向上させた例もある。ホームページによる情報発信は事業参加の促進策として年齢の比較的若い層へ有効であるし、前述した運営委員・協力委員の確保にも貢献できる。

### ③窓口対応の工夫

窓口はコミュニティセンターの顔であり、そこでの対応はコミュニティセンターの印象を大きく左右することになる。多くのコミュニティセンターでは声かけをおこなうことで利用者とのコミュニケーションをはかり、施設利用の工夫をしている。おおむね、各コミュニティ協議会では2つの工夫をおこなっている。

第1はマニュアル・研修・講習で窓口対応の向上をはかり、人によってバラツキがないよう努力していることである。たとえば、境南コミュニティ協議会では、「smile, safety, speedy」をモットーにして注意事項9項目、17細目を定め、作業手順を朝・昼・夜別にまとめて常時参照するよう工夫している。けやきコミュニティ協議会では年2回窓口研修会を開催し、多様な利用者への対応を話し合い、窓口での対応での改善をこころがけている。吉祥寺西コミュニティ協議会では窓口担当者の打ち合わせを月1回2時間以上おこない、地域の交流の場であることを共通認識とするよう努めている。

第2は運営委員が窓口担当となり、直接利用者と接触することで、利用者の必要としていること、困っていること、不満などを吸収しようとしていることである。たとえば、けやきコミュニティ協議会や吉祥寺北コミュニティ協議会ではすべての運営委員が窓口を担当している。境南コミュニティ協議会では役員、協議員、協力員で窓口担当者を構成している。かつて窓口担当者は運営委員ではなかったが、近年は全てのコミュニティ協議会の運営委員が窓口を担当しているが、協議会によって担当している人数の格差がみられる。

このように、運営委員がすべて窓口を担当することを試みているコミュニティ協議会は積極的に評価されるべきであろう。なぜなら、前述したように窓口はコミュニティセンターの顔であり、「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「いってらっしゃい」「どういたしました」などの声かけの活動こそコミュニティセンター活動の基本という考えは重要である。地域住民の声を運営や企画に反映させるという意味でも、運営委員が住民と直接接する意義は大きい。

これらの運営方式は窓口担当者が少ないコミュニティ協議会には大いに参考になる

点であると思われる。

#### ④利用の制限

利用方法は原則的にすべて平等に申し込みを受け付けているが、特例として制限や優先づけをおこなっている場合もある。

駅に近いコミュニティセンターや他市と隣接しているコミュニティセンターでは、貸し部屋業の性質を他のコミュニティ協議会以上にもつ。他市の住民が劇団の練習などで定期的に予約する傾向があり、これについては1団体につき予約は月2回という制限を課すこともある。当然ではあるが、営利目的の利用、宗教関係での利用、政治目的での利用、他の利用者に迷惑をかけた人については、利用を制約することもある。

逆に吉祥寺西コミュニティ協議会のように、学習室でのナンバー登録をしたり、プレイルームで子育てグループ、学童クラブ、高齢者団体への優先利用を認めている協議会もある。関前コミュニティ協議会や西久保コミュニティ協議会でもレクリエーション室や卓球室を小・中学生優先時間帯を設けて、他利用者と共同利用することで事故のないよう配慮している。吉祥寺北コミュニティ協議会のように、体育館使用で小学生と中高生との利用をわけている例もある。一般利用者からみれば制限と受け止められるかもしれないが、これらはあくまでも特例であり、施設を有効に利用して摩擦を避ける各協議会の創意工夫として評価すべきであろう。

#### ⑤参加の原則（会則）

多くのコミュニティ協議会では会則での人数制約をおこなっていない。ただし、会則で定数を定め、従来からの慣例を踏襲している協議会も散見する。たとえば、境南コミュニティ協議会では協議委員を議決上一定数に制限している。本宿コミュニティ協議会では会則第9条で運営委員の定数を40名以内としている。吉祥寺北コミュニティ協議会も会則で運営委員の上限を60名としている。

前述したように、運営委員はどの協議会も人手不足の傾向にあり、定数を定めている協議会も定数を満たしていない。市民なら誰でも参加できるという自主三原則からみて、この参加制限の会則は意味がなく、今後改めるべき点であろう。

#### ⑥事業・企画の工夫

どのコミュニティ協議会も事業の企画には各コミュニティの特性にそった創意工夫をし、地域づくりに貢献している。

第1に交流型の企画である。各コミュニティ協議会では様々な企画事業が恒常的におこなわれている。高齢者の交流広場を設けたり、子ども囲碁教室を開催したり、子供の体験コミュニケーションが実施されたりする。書道、囲碁、華道、茶道、アレンジフラワー、映画会、園芸クラブ、パソコン学習会、ミニコンサート、防災訓練、ごみ減量などの環境問題の企画が開催されたりしている。月1～2回程度でこれらの企画を継続しておこなうコミュニティ協議会が多い。また、バス研修会、カラオケ大会、芸能大会、歩こう会など年1回程度の企画もある。地域住民との交流を目的とし、無

理をしない範囲で継続して地域住民に交流の場を提供することがこころがけられている。住民にとって内容の充実した企画を実施しようとする地道な努力は貴重である。

第2に起業・事業型の企画である。従来からおこなわれてきたコミセン祭りだけでなく、吉祥寺南町コミュニティ協議会では「南町カーニバル」「さくら祭り」「南町市民円卓会議」「リサイクル工房」など地域づくりで創意工夫に富んでおり、起業家・経営者としての進展を重視した新しいタイプのコミュニティセンターとして積極的に評価できる。

PTA や子供会などの教育関連団体、青少年問題協議会や防犯協会などの地域団体、社会福祉協議会や老人会などの福祉団体、環境ボランティア、地域JA、商店会、地元企業、などと連携し、タイアップの企画をしたり、企画運営に参加してもらったりしている協議会も少なくない。本宿コミュニティ協議会がおこなっているように、音楽家にボランティアで依頼するなど人的ネットワークを駆使して地域資源を最大限有効に活用する傾向がある。八幡町コミュニティ協議会のように、地元の歴史を探访する「ルーツを探る会」を組織するようなユニークな企画も地域住民のコミュニケーションに寄与している。大学や高校、小中学校のPTA、地域の商店会などを地域資源として活用していないコミュニティ協議会は、新しい資源の開拓をおこなうべきであろう。また隣接した協議会との連携によって共同企画を積極的に展開する可能性もあるのではないか。

#### ⑦コミュニティのあり方

コミュニティのあり方は各協議会で異なるし、そのコミュニティづくりの創意工夫も異なるものであってよいと思う。コミュニティセンターの活動エリアが小学校区域、福祉区域と一致している協議会もあれば、一致していない協議会もある。前者が吉祥寺南町コミュニティ協議会や境南コミュニティ協議会であり、後者が吉祥寺東コミュニティ協議会である。町会、大学、商店会などの地域資源を有効に活用できるコミュニティ協議会もあれば、地域資源を活用することが難しいコミュニティ協議会もある。駅から近いコミュニティセンターと駅から遠いコミュニティセンターとでは、利用者数も利用率も大きく異なるであろう。地域住民と話し合い、地域住民が満足するような事業や施設の利用であってほしいと思う。

ただし、コミュニティのあり方を考えるうえで指摘しておかなければならない点が公共施設利用での限界である。定期的に施設を利用したいサークル・集団にとっては、月2回の利用条件があることは強い制約となっている。また、予約をすることで教室が確保されることは、定期的に開催できない可能性を意味している。コミュニティ協議会は施設貸し業務だけを目的としているのではないため、このような市民のニーズにすべてコミュニティセンターが対応することは難しい。文化会館、公会堂、スイングホール、市民会館、体育館など他の公共施設との連携が必要とされている。

### 3. 各コミュニティ協議会の評価と課題

すでに「はじめに」で断っておいたが、以下の各コミュニティ協議会へのコメントは、決して評価委員会による全般的な評価結果を示したものではない。あくまで評価活動の過程で感じた点を簡単にまとめたものにすぎない。したがって、各協議会においては参考意見のひとつとして受けとめていただければよい。われわれ外部の者から見てすぐれた成果と思われる点や、活動の内実について自由な立場で述べることのできる提案の中に、これからの活動への励みやヒントを見出してもらえれば、大変幸いである。

#### ①吉祥寺東コミュニティ協議会

コミュニティの地区が小中学校の学区や地域福祉社協のエリアと一致しておらず、複雑な組合せになっているために、協議会が中心になって地域をまとめるという点で困難があったようである。さらに、吉祥寺駅近くの環境悪化の問題やマンション開発にともなう日照権の問題など、取り組むべき地域的な課題が比較的是っきりしていた地域である。

このような条件の中で、協議会では住民が地域の問題について自由に議論する「つどい」という場を設定し、地域的な課題の共有を図ると同時に、関係する団体や住民をつないで、行政など関係機関への要請の際の調整役を引き受けるなど、地域問題の解決にむけて重要な役割をはたしてきた。典型的な地域課題解決型のコミュニティであったと考えられる。

反面、交流だけを目的とした、親睦的な活動に大きな時間と労力をさくことには負担を感じる市民が多いようで、参加者に無理をさせない柔らかな組織運営を工夫するとともに、武蔵野市在住の著名人を活用した質の高い学習活動などで成果をあげてきた。今後は興味の持てる人を中心とした自由なイベントや文化活動などで新しい担い手や若い世代の参加を促していくことが課題となるであろう。これまでの特徴を生かしつつも、新しい展開を期待したい。

#### ②本宿コミュニティ協議会

コミュニティ市民委員会の中間答申での指摘にもとづき、地元の要請なども受けて一番最後に建設されたコミュニティセンターである。建設が最近であることから、バリアフリーなどの面で最新の設備を備えた建物であることや鉄道路線寄りの地域であることもあってか、不特定多数の人々が比較的広い範囲から訪れているようである。そのためコミュニティ施設というよりも、一般的な施設として利用する意識の人が多く、協議会の側では公平な利用に努めるなどの対応を行っているが、備品が破損されるなど、苦勞がたえないようである。

吉祥寺東コミュニティ協議会と重なる区域でもあり、やはり武蔵野市在住の文化人の協力をえて主催する「スプリングコンサート」が好評を博している。イベントなどの交流活動もますますであるが、やはり担い手の確保という点で困難を抱えている。

地域全体が急激に高齢化しているのに、無理もない側面はあるが、吉祥寺駅周辺の地域ということもあってか幼児を抱えた若い夫婦の流入は決して少なくない。今後は、このような若年家族による子どもの活動をいかにして取り入れ、担い手層の世代交替を図っていくかが、課題になるのではないだろうか。

### ③吉祥寺南町コミュニティ協議会

地域の商店街などとの共催でカーニバルを実施したり、地域交通問題、防犯対策、環境問題に取り組んだり、活動は活発かつ幅広いものがある。コミセンを中心とした施設や補助金を経営資源としてとらえ、その有効活用を図ろうとする典型的な起業・事業型のコミュニティといえる。その点が商店街との連携や市議会議員との連携を可能にしている点だと思う。

しかしながら、このような活動形態はともすれば、事業目的のために活動がすべて合理化されてしまうところがあるので、注意が必要である。事業目的＝ミッションに特別の思い入れを持てる人や、会社組織のようにきちんと運営されることそのものに満足できる人にはよいが、交流そのものを楽しみ、のんびりと活動を進めたい人を遠ざける結果になってしまう可能性もある。つねに事業目的をコミュニティの活動理念に照らして、運営委員や参加者の間で広く議論し、確認していくことが求められる。

### ④御殿山コミュニティ協議会

吉祥寺駅にほど近い、古くからの商店街の人々を中心にして運営されてきた経緯を持つコミュニティである。吉祥寺駅周辺の商業的な発展とは裏腹に、もともとの地元の商店街は後継者不足などもあって商店が減少し、それがそのまま協議会の人手不足につながっている。それでも鉄道路線沿いの地域ということもあって、利用者は多く、協議会による公平な利用という点での配慮もあって、稼働率は非常に高いものがある。しかしながら、ここでも不特定多数の利用という点ではむずかしい問題が生じているようである。

地域全体としては、マンション居住者も居住歴が長く高齢化してきており、また若い人の流入も決して少なくない。今後は地域の人を集めることのできるイベントを工夫することを通して、新しい担い手の参加を促していくことが求められる。現在の担い手との関係もあって、地元商店街の振興につながるような、地域の人を商店街やコミセンに引き込んでいくようなイベントが工夫できるならばそれが理想的であろう。

### ⑤本町コミュニティセンター協議会

吉祥寺駅近くの環境浄化対策推進との関連で設立され、一貫してこの地域問題に取り組んできた課題解決型のコミュニティである。市との協働や地元住民・商業者の努力によって、この面での地域課題の解決はかなりの程度成果をあげたと評価できる。今後も継続的な努力が必要なことはいうまでもないが、新たな展開を模索する必要も出てきているようである。

現在は主に駅近くの便利な施設として利用者にたいする公平なサービスの提供に意を砕いているようで、センター祭りなどの機会をとらえた市民の交流も図られている。今後は、商店街振興などとの関連で事業型の活動を切り開いていくか、さらなる地域課題への取り組みのための調整役割を深めていくのか、さらなる展開が期待される。

#### ⑥吉祥寺西コミュニティ協議会

吉祥寺駅周辺の住宅地にあるコミセンとして、地域福祉活動などに力を入れてきたコミュニティである。最近では子どもの活動にも力を入れているようだが、地域全体の子ども数が減少し、全体に高齢化が進んでいるためか、協議会メンバーについても若返りが大きな課題になっている。ただ、パソコン教室などによって以前よりも男性の参加が増えている。しかし、そこでも40代から50代の中堅層が少ないのが悩みだという。

また、コミセンの利用に関しては鉄道路線寄りの地域に共通の課題として、若者の利用にともなう物品の破損や落書きなどに頭を痛めている。それでも窓口対応における積極的な声かけなどを通じて、若年の利用者とも交流を図っている点は高く評価できる。今後はこの点での努力の継続が担い手の若返りにもつながっていくことを期待したい。

#### ⑦吉祥寺北コミュニティ協議会

駅から少し離れた住宅地にある大型館で、ロビーが広い点や体育館などの施設が充実している点で、地域の多様な人々が利用し、交流を図っているコミュニティといえる。コミュニティは人と人との結びつきからという考え方からか、当初から運営委員がすべて窓口立ち、地域の人との交流に努めてきた点は高く評価できる。また、最近ではパソコン教室のサポーター経験者から運営委員になってくれる場合があったり、寄贈を受けたグランドピアノを生かしたコンサートなどの試みが好評を博している。質の高い事業とは何かという点にこだわってきたようだが、今後は地域的な課題の発見や解決につながり、そのような観点からコミュニティの運営や事業に関わる人々の輪が広がっていくような活動の展開を期待したい。

#### ⑧けやきコミュニティ協議会

社宅が多く、人口の入れ替わりがはげしい住宅地であるためか、一体感を高めるために、①きまりを少なくして、よく話し合う、②えらい人をつくらない、③人をつなぐ努力をするという運営方針を掲げ、ユニークで多彩な行事を展開している。地域に存在する成蹊大学からも協力を得ることに成功している。典型的な交流型コミュニティといえる。とりわけ運営における風通しの良さや人をつなぐ努力という点で、当初から運営委員が率先して窓口立ち、利用者＝地域の人々とのコミュニケーションに努めてきたことは特筆される。

今後は地域社会に存在する課題の発見と共有、その解決への働きかけという点でのさらなる展開を期待したい。



#### ⑨中央コミュニティ協議会

最近になって運営委員の世代交替がなされ、大きく雰囲気が変わってきた協議会と思われる。その意味で、活動のあり方も徐々に見直しがなされてきている途上と考えられる。駅からは少し離れているが、それなりに便利な住宅地のコミセンということもあって、学習室利用の学生さんが多いようである。運営委員の若返りとともに、学習室の利用者との交流も生まれてきたようで、将来が楽しみである。他に近隣の諸団体との交流も試みられているようで、今後どのような方向でコミュニティづくりを進めていくのか、その点での方向性を確認し、確定していくことが課題ではないだろうか。

#### ⑩西久保コミュニティ協議会

センターを中心に多彩な事業を展開し、地域からのサポートもしっかりしているようで、安定した運営がなされていると思われる。とりわけ施設の維持・管理という点で利用者にも適切な利用を要求し、快適な施設環境の保全に努めている点は特筆される。ただし、コミュニティ施設としての事情を理解していない利用者にとっては、誤解を招く可能性もないとはいえない。その意味で、初めての利用者に対するコミセンの特質に関する説明などを工夫していくと、より理解が得られて良いのではないだろうか。できれば、休館日をなくしたいとの意欲には頭が下がる。

今後は、より広い地域からの不特定多数の利用者との交流という点で、新しい工夫や考え方が生まれてくると、現在の長所を活かしたうえで、コミュニティとしてのさらなる展開が期待できるように思う。

#### ⑪緑町コミュニティ協議会

市役所にほど近く公共施設は多いが、住宅は比較的少ない地域に立地したコミュニティセンターで、もともと集会場要求から始まって設置されたせいか、施設の管理と利用を中心とした活動が行われてきたようである。最近では、公団の建替えにともない、そちらに独自の集会所が別途整備されたこともあってか、担い手や後継者の不足が大きな悩みになっている。ただし、パソコン教室などには新しい人が参加し、こんなところがあるとは知らなかったと、いわれることもあるそうで、まだまだ地域には潜在的な人材が隠れていると思われる。

したがって、広く地域の人々を引きつけることができるようなイベントの企画や、それを通じて人と人がつながっていくような取り組みを工夫していくことが求められる。そのような試みによって、施設利用だけの活動から地域の課題を発見していくなどの活動への新たな展開が期待される。その際に、老人ホームやシルバーピア、保育園などとの連携や、武蔵野中央公園、NTT 研究開発センター、市役所などの地域の資源が活用できるとよいのではないだろうか。

## ⑫八幡町コミュニティ協議会

小型館で施設的な制約が大きいという点に、葬儀での利用もあるので、センターを中心としたイベントや企画という点ではむしろ側面がある。しかしながら、古くからの地域的つながりによってしっかりと支えられている部分があって、「ルーツを探る会」など地域の歴史を伝承しようとするユニークな取り組みも定着している。窓口担当を雇用的な関係から運営委員としてコミュニティづくりの最先端を受け持つ役割へと位置づけ直すことで、大きな変化が出てきているようである。

今後は武蔵野中央公園北ホールなども活用しながら、利用者との交流を深めるような企画を工夫しながら、さらに地域での交流の輪を広げていくことが期待される。

## ⑬関前コミュニティ協議会

古くからの住民の多い地域で、地域の諸団体との連携がうまくとれていて、それらによってしっかりと支えられているコミュニティであると思われる。地元の PTA の若いお母さんがそのまま運営委員に加わってきてくれるそうで、世代交替がうまく進んでいるようである。そのせいか、子ども関係のイベントや行事が充実しており、ロビーが広く、子どもたちの自由な利用が可能な点も有利な条件となっている。他の地域とは違って、子どもの数がまだ減っていないこともあるが、学校や PTA との連携に特徴のあるコミュニティである。

今後は、着実に増加しつつある地域の高齢者への対応や、福祉関係の活動が求められるのではないだろうか。

## ⑭西部コミュニティ協議会

区域が広く、区域内の武蔵境駅周辺には、市民会館やスイングホール会議室などもあるので、駅周辺の商店街や活動団体はそちらを利用しているようで、コミュニティへの協力を確保することに困難がともなうようである。いろんな意味での活動の担い手をつくっていくことが課題になっている。担い手不足という点から、運営委員の負担感が高くなってしまい、交流やイベントにもあまり積極的になれないところがある。こういうときこそ、楽しめる交流や新しい人との出会いが生まれる企画が必要であるが、なかなか踏み切れないでいるのだろう。近くにある玉川上水や小金井公園を利用した事業を考えたり、隣接する亜細亜大学との交流を考えたりすると、活動が広がっていくのではないかと。なかなか連携がむずかしいようだが、商店街や市民会館利用の活動団体との共催事業なども工夫できるとよいだろう。困難は多いと思うが、積極的な活動のきっかけが生まれることを期待したい。

## ⑮境南コミュニティ協議会

設備の整った大型館として、地域の中心としてよく利用されている。成立の経緯などもあって、現在でも運営委員は区域内の地区ごとに呼びかけがなされ、かつそれがある程度機能している点に地域全体で支えてきたという実績がよく表れている。ただし、そのことが制約になって、長く活動に関わりたいという意欲をもった担い手を十

分に生かし切れないところがあるとすれば、大変残念である。地域全体で支えるという点を生かしつつも、意欲ある人の積極性を生かす工夫が必要なのかもしれない。あるいは逆に、地域全体を代表できる可能性があるのだから、施設の利用や運営・管理という点だけではなく、地域全体の課題に取り組むという部分を強化していくのもひとつの方向かもしれない。いずれにせよ、土台のしっかりした自力のあるコミュニティとして、さらなる展開を期待したい。

#### ⑩桜堤コミュニティ協議会

制約の多い小型館で、葬儀利用もあり、立地も決して恵まれていないが、地域に根ざして地域の人々の便宜を図るという点で、アットホームな雰囲気を大事にしているコミュニティといえる。このような活動の方向性は条件からいって理にかなったものといえる。隣接し区域が重なっている西部コミュニティ協議会とのいろんな意味での調整が大変だろう。互いの特徴を生かしつつ、それぞれが元気になれる関係を模索することが大事なので、安易に共同事業を行うというよりも、まず情報交換と相互啓発に努めることが望まれる。そのような中から、さらなる新しい展開が生まれてくるのではないだろうか。もう少し現在の状態を維持しながら、焦らずに次への展開を考えていけばよいように思う。

#### 4. コミュニティ評価委員会委員

任 期 平成 15 年 3 月 26 日～平成 16 年 3 月 31 日

	氏 名	所 属	備 考
委 員 長	玉野 和志	東京都立大学人文学部助教授	
副委員長	武智 秀之	中央大学法学部教授	
委 員	小美濃 純彌	コミュニティ研究連絡会代表	
	大谷 裕子	コミュニティ研究連絡会代表	平成 15 年 5 月 25 日まで
	荒川 澄子	コミュニティ研究連絡会代表	平成 15 年 5 月 26 日から
	皆川 栄司	公募による市民	
	田中 雄一	公募による市民	
	中野 哲夫	市の職員	平成 15 年 7 月 3 日まで
	檜山 啓示	市の職員	平成 15 年 7 月 4 日から

(敬称略)

# 資 料

(1) コミュニティ評価活動内容・日程

(2) コミュニティ地区ごとの人口・事業所数の集計結果

人口数の推移 資料①

年齢別人口構成の推移 資料②

産業別事業所数の推移 資料③

(3) 市民アンケート調査結果

調査の方法

単純集計結果

分析結果のポイント

自由回答部分の分析結果

「市民アンケート調査」自由回答例

市民アンケート用紙様式

## (1) コミュニティ評価活動内容・日程

回数	内 容	期 日	時 間	会 場	出席者等	備 考
1	委嘱式、コミュニティの説明、 評価方法の検討及び基準	平成15年3月 26日(水)	19:00～ 20:40	市役所 教育委員会室	委員7名 事務局	
2	評価方法の検討、 評価基準の作成(大まかな基準)	平成15年4月 21日(月)	19:00～ 21:00	商工会館 第3・4会議室	委員7名 事務局	
3	正副委員長・事務局打合せ	平成15年5月 14日(水)	17:00～ 19:00	中央大学2号館	正・副委員長 事務局	
4	懇談会・視察、評価方法検討、 評価の観点、アンケート	平成15年5月 26日(月)	19:00～ 21:00	商工会館 講座室	委員7名 事務局	
5	コミセン視察	平成15年6月 29日(日)	9:00～ 16:05	コミセン 7ヶ所	委員7名 事務局	
6	運営委員と評価委員の懇談会 (東会場)	平成15年 7月 9日(水)	19:00～ 21:00	武蔵野公会堂	コミセン39名 評価委員6名 事務局	
7	運営委員と評価委員の懇談会 (西会場)	平成15年7月 16日(水)	19:00～ 21:00	スイングホール	コミセン36名 評価委員6名 事務局	
8	正副委員長・事務局打合せ	平成15年 7月 31日(木)	15:00～ 17:00	中央大学2号館	正・副委員長 事務局	
9	市民アンケートの設問検討	平成15年8月 11日(月)まで		メール・郵便	委員7名 事務局	
10	評価委員と市長との意見交換	平成15年8月 13日(水)	10:00～ 11:00	市長公室	委員7名 事務局	
11	評価の観点の整理、 評価活動の具体的なイメージ	平成15年9月 11日(木)	19:00～ 21:00	商工会館 講座室	委員7名 事務局	
12	自己評価の観点の内容について コミセンから意見受付	平成15年10月 11日(土)まで		メール・郵便等	各コミセン	
13	「自己点検・評価表」の検討	平成15年10月 16日(木)	19:00～ 21:00	商工会館 第3会議室	委員7名 事務局	
14	「自己点検・評価表」打合せ	平成15年10月 21日(火)	18:00～	中央大学2号館	正・副委員長 事務局	
15	「自己点検・評価表」をコミュニ ティ協議会委員長に手渡す	平成15年10月 29日(水)	19:00～	商工会館 講座室	正・副委員長 各コミセン	
16	「自己点検・評価表」コミセン回答	平成15年11月24 日～12月7日		メール	各コミセン	
17	評価委員へ記入済み「自己点検・ 評価表」を送付	平成15年11月25 日～12月8日		メール・郵便	委員7名	
18	協議会との意見交換(6コミセン)	平成15年11月 30日(日)	13:30～ 17:00	武蔵野公会堂 合同会議室	コミセン24名 評価委員7名 事務局	
19	協議会との意見交換(4コミセン)	平成15年12月 6日(土)	13:30～ 17:00	市民会館 集会室	コミセン16名 評価委員7名 事務局	
20	協議会との意見交換(6コミセン)	平成15年12月 13日(土)	13:30～ 17:00	市役所会議室 802会議室	コミセン24名 評価委員7名 事務局	

回数	内 容	期 日	時 間	会 場	出席者等	備 考
21	正副委員長・事務局打合せ	平成15年12月 22日(月)	11:00～ 12:15	市役所コミュニ ティコーナー	正・副委員長 事務局	
22	報告書の構成を作成し各評価委員に分担執筆を依頼	平成15年12月 24日(水)		メール・郵便	委員7名	
23	各評価委員より提出	平成16年 1月 10日(土)まで		メール・郵便	委員7名	
24	正副委員長・事務局打合せ	平成16年 1月 14日(水)	18:00～	市役所コミュニ ティコーナー	正・副委員長 事務局	
25	正副委員長がまとめた報告書(案)を各評価委員へ送付	平成16年 1月 31日(土)		メール・郵便	委員7名	
26	評価のまとめ	平成16年 2月 6日(金)	19:00～ 21:00	商工会館 講座室	委員6名 事務局	
27	報告書の作成	平成16年 2月 23日(月)まで		市民活動センター	正副委員長	
28	市長へ報告書提出	平成16年3月 2日(火)		市長公室	正・副委員長 事務局	
29	コミュニティフォーラム	平成16年3月 24日(水)	19:00～ 21:00	スイング レインボーサロン	コミセン・市民 評価委員7名 事務局	

## (2)コミュニティ地区ごとの人口・事業所数の集計結果

### 人口数の推移—資料①

ほとんどの地区で人口は横ばい。

桜堤と西部だけが人口が減少している。ほとんどが桜堤地区での減少と思われる。

### 年齢別人口構成の推移—資料②

全体として高齢化が進んでいるが、駅周辺の地区では20～30代の流入が見られる。

関前・八幡町・緑町・けやき・吉祥寺北などの地区ではそれなりに子どもの数が維持されており、ファミリー層の流入があると思われる。

### 産業別事業所数の推移—資料③

駅周辺の地区では卸売小売業やサービス業の発展が見られる。

駅から離れた地区では不動産業などの進展が見られる。

### ま と め

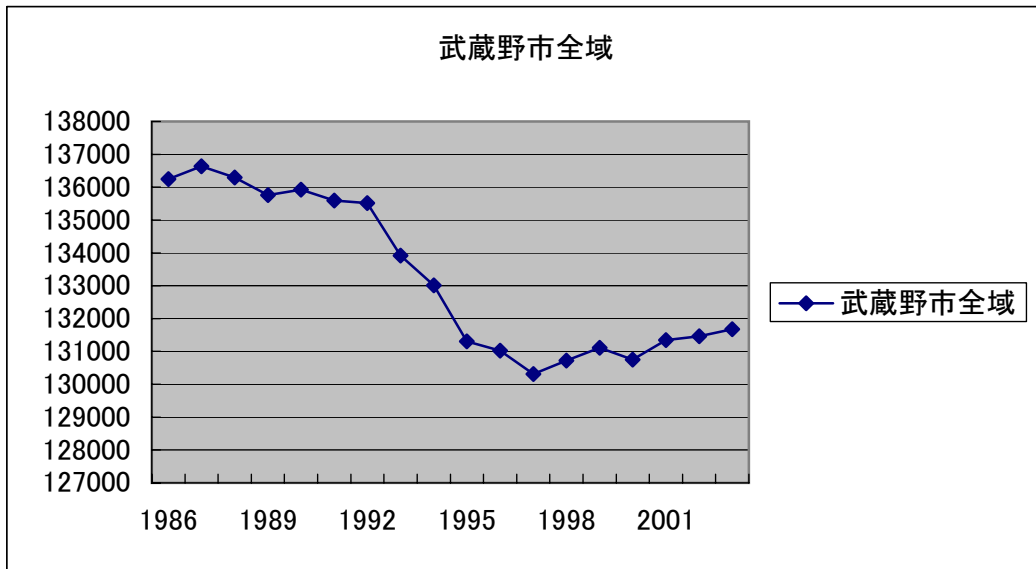
武蔵野市全体としてはきわめて安定した住宅地としての地位を維持しており、高齢化は進んでいるが、バブルの時期には桜堤の地区で住宅開発が行われ、その後の都心回帰にともない、今度は駅から遠い地区の住宅開発によるファミリー層の流入が見られる。また、駅周辺の商業地としての発展が若い独身者の流入をもたらしているようである。

コミュニティ地区別には、桜堤の人口減少、関前・八幡町・緑町・けやき・吉祥寺北などの若年ファミリー層への対応、駅周辺の単身の若者たちへの対応などが最近の変化として想定できる。

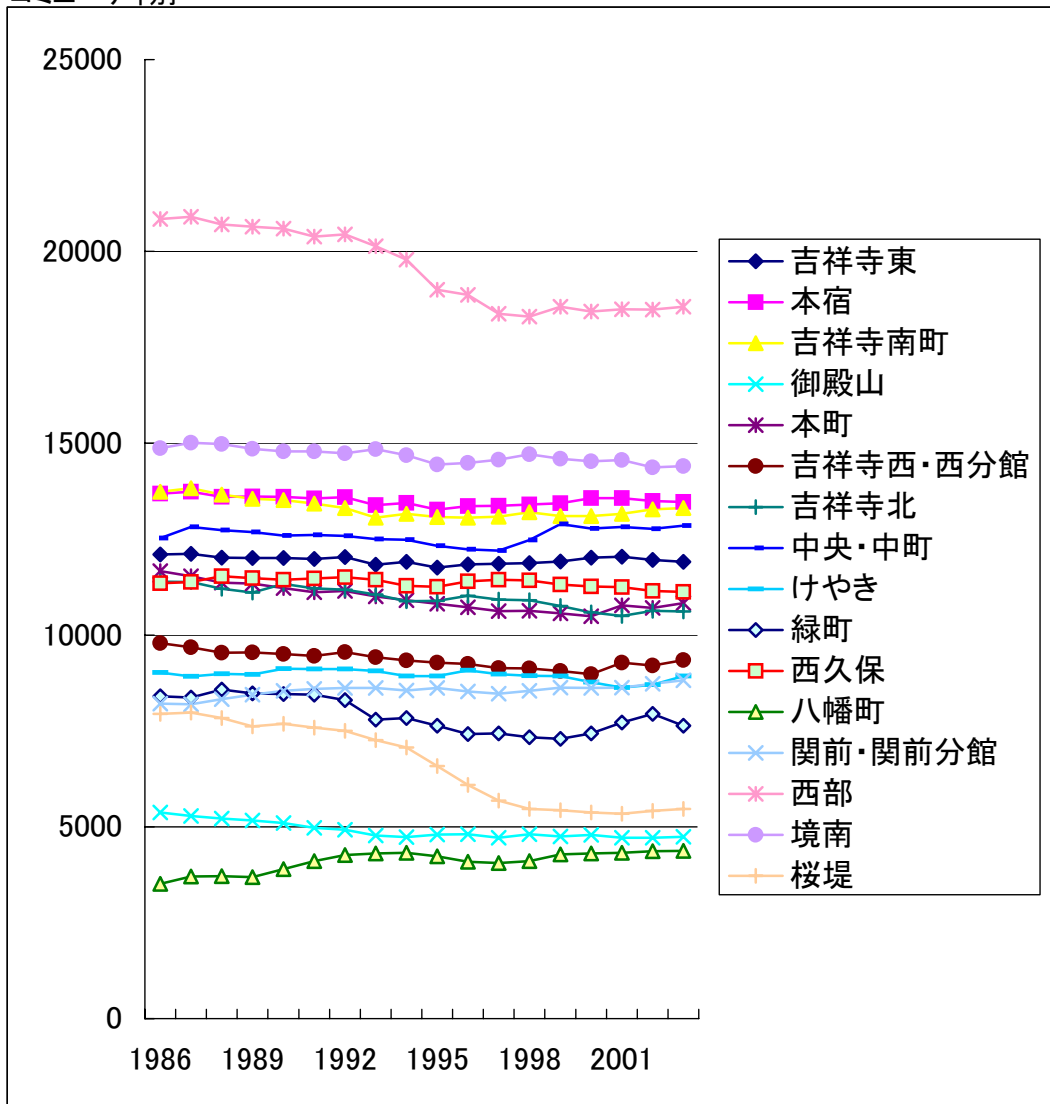


# 人口数の推移

資料①

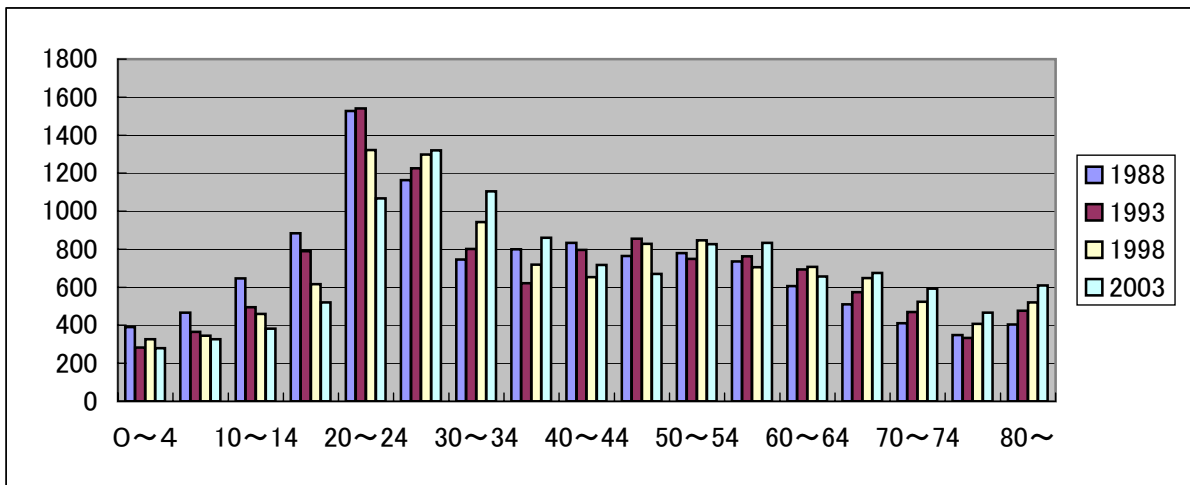


## コミュニティ別

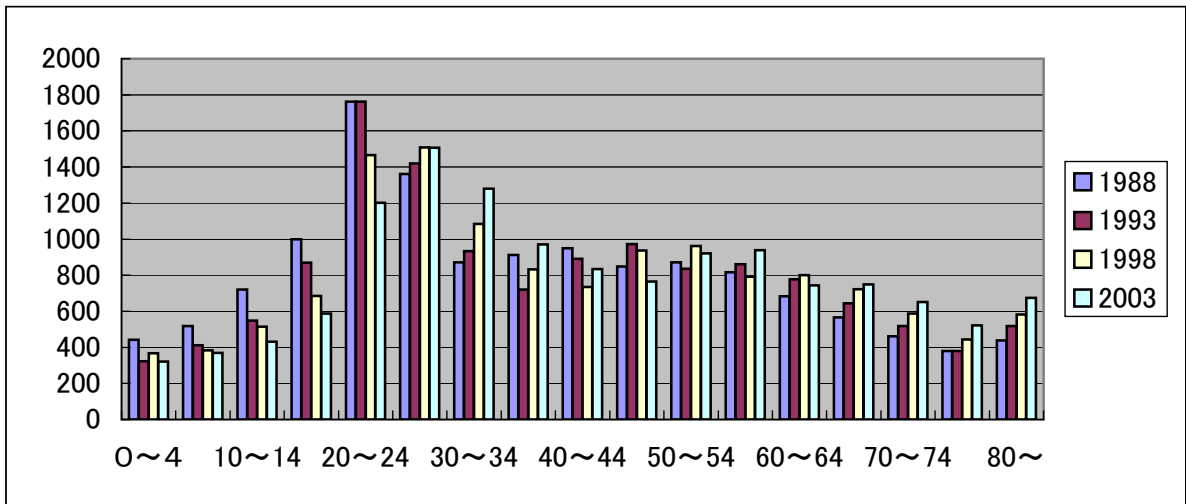


年令別人口構成の推移 (全域は末尾)  
吉祥寺東

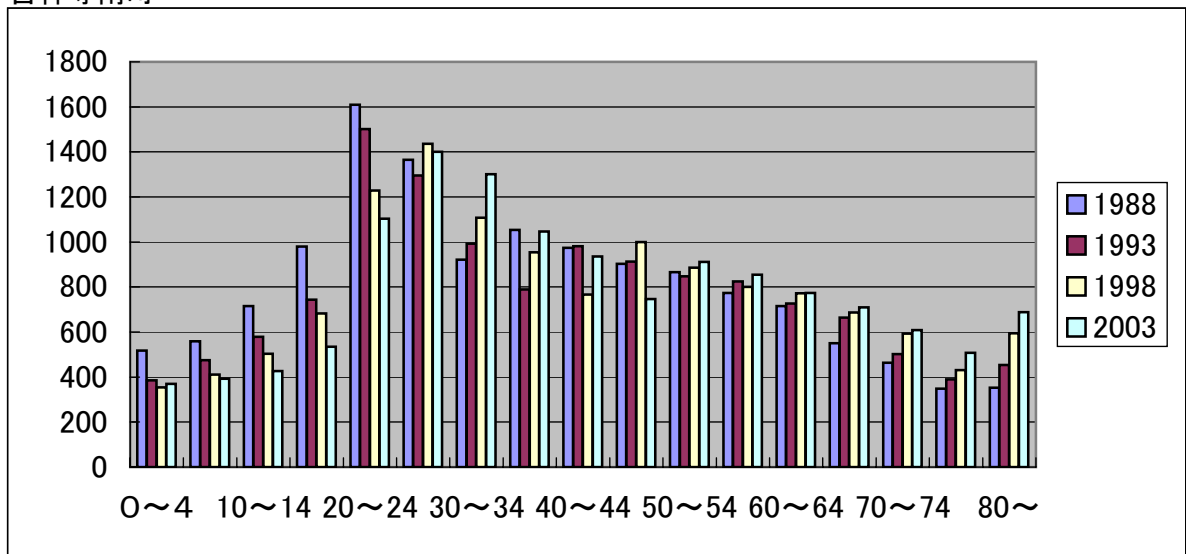
資料②



本宿



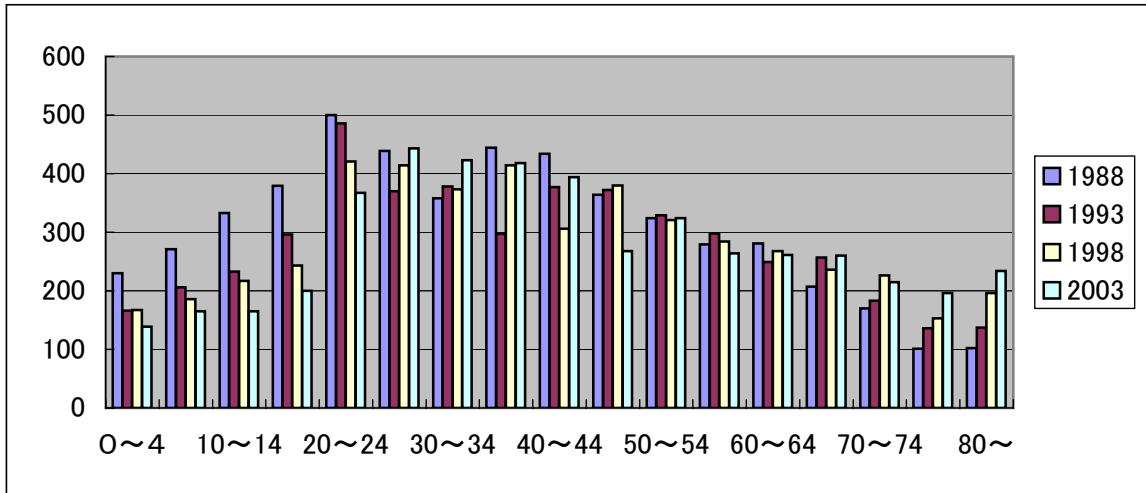
吉祥寺南町



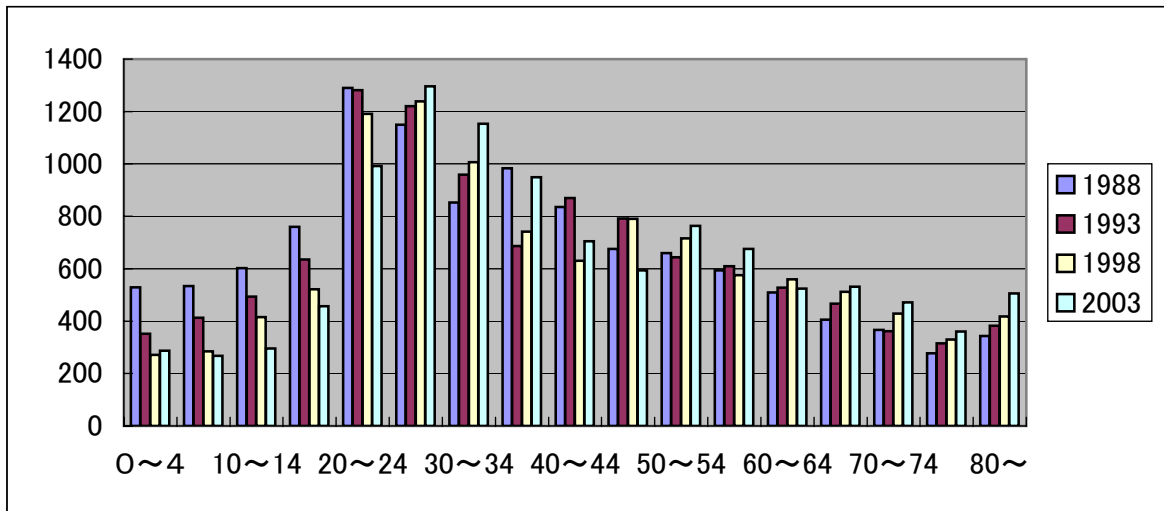
年齢別人口構成の推移（全域は末尾）

資料②

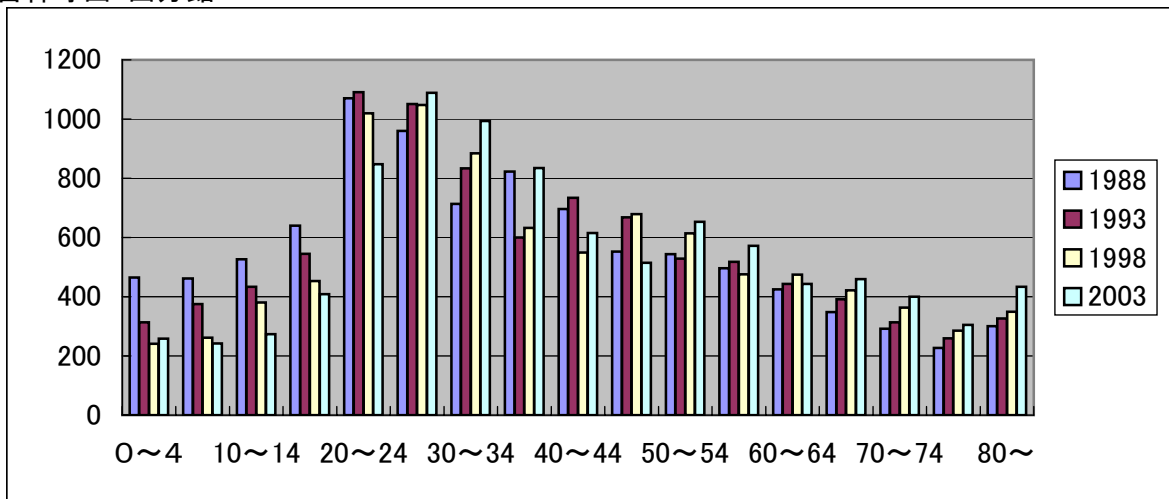
御殿山



本町

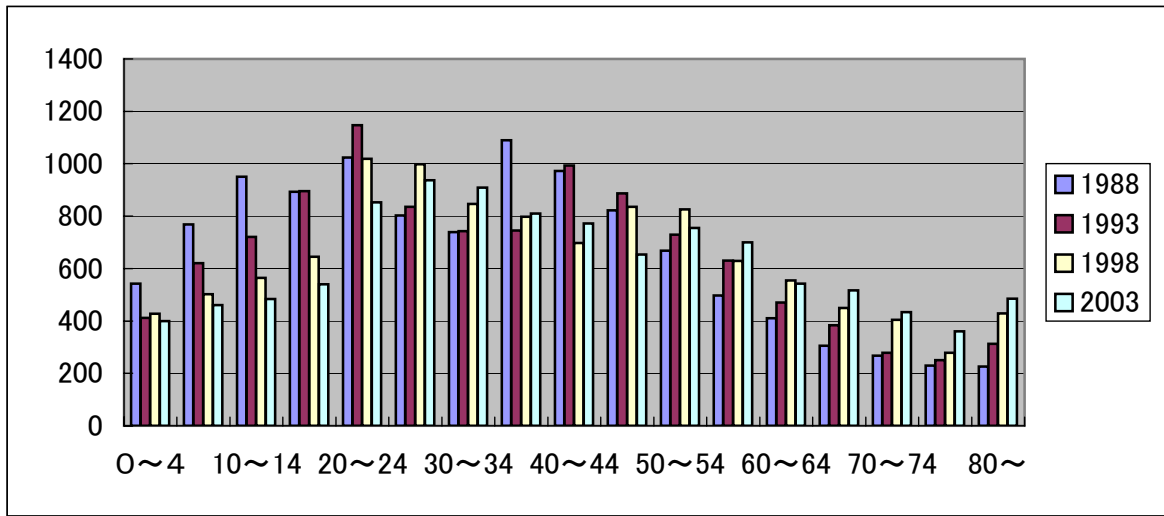


吉祥寺西 西分館

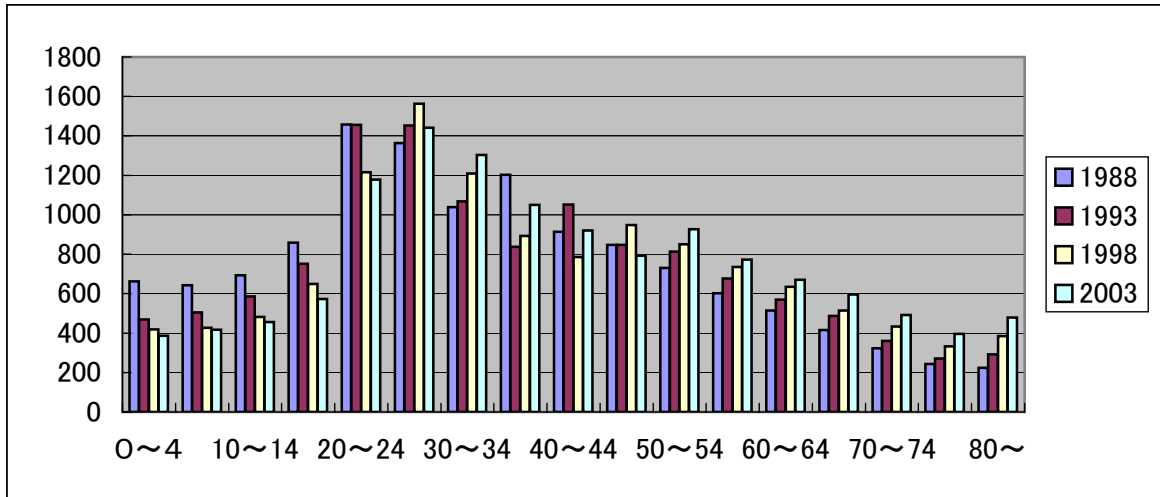


年齢別人口構成の推移（全域は末尾）  
吉祥寺北

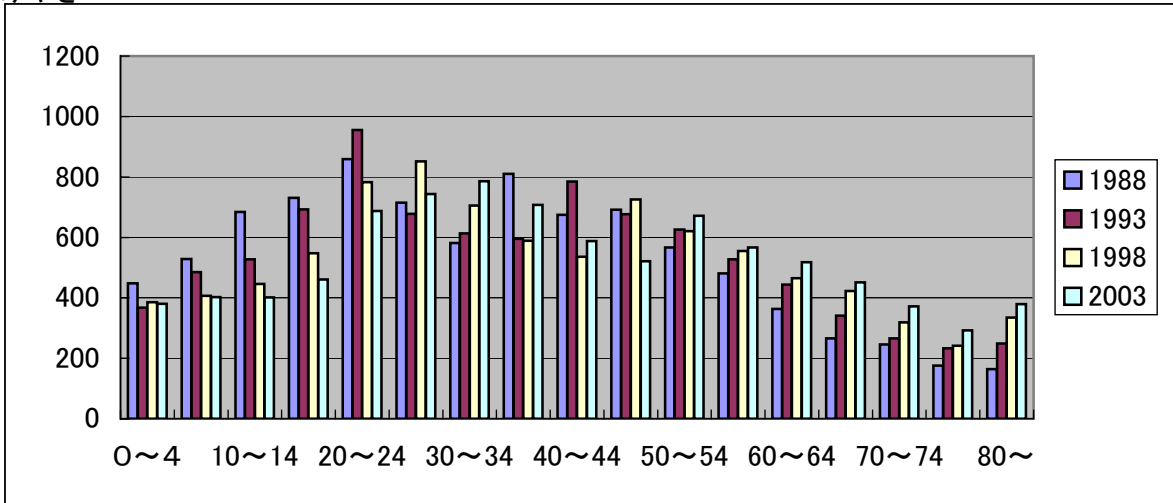
資料②



中央・中町



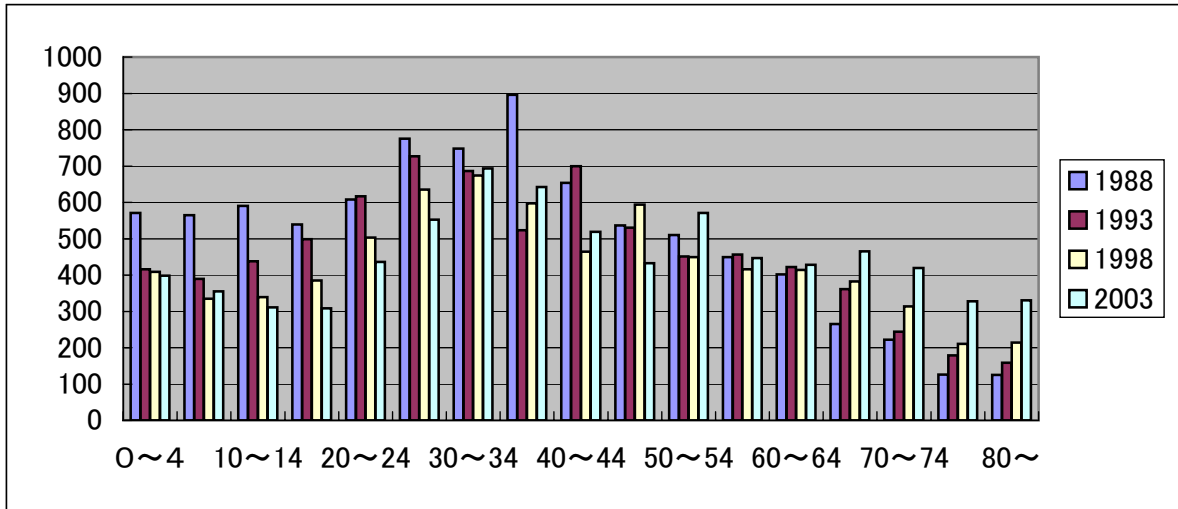
けやき



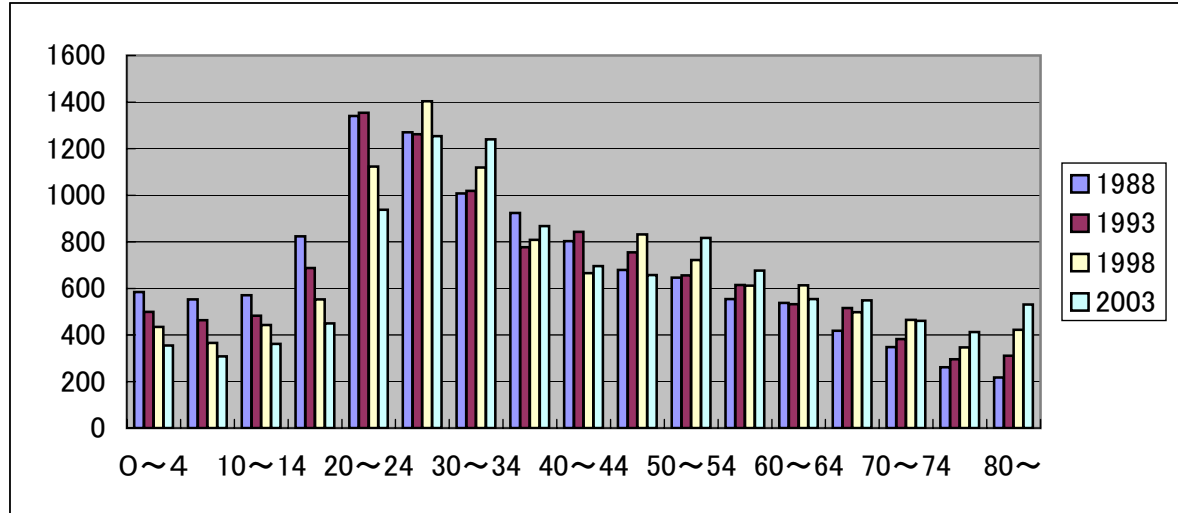
年齢別人口構成の推移（全域は末尾）

資料②

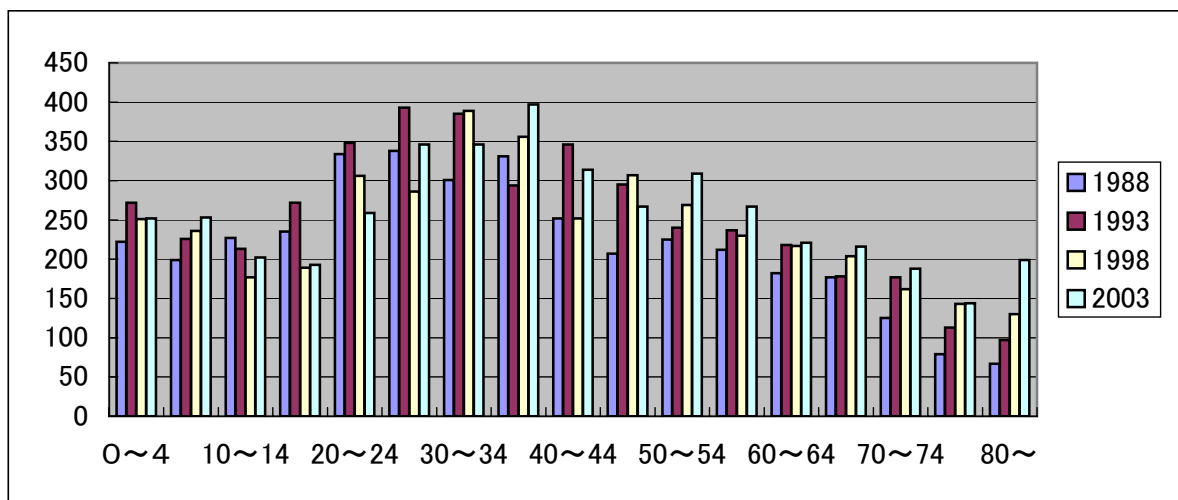
緑町



西久保

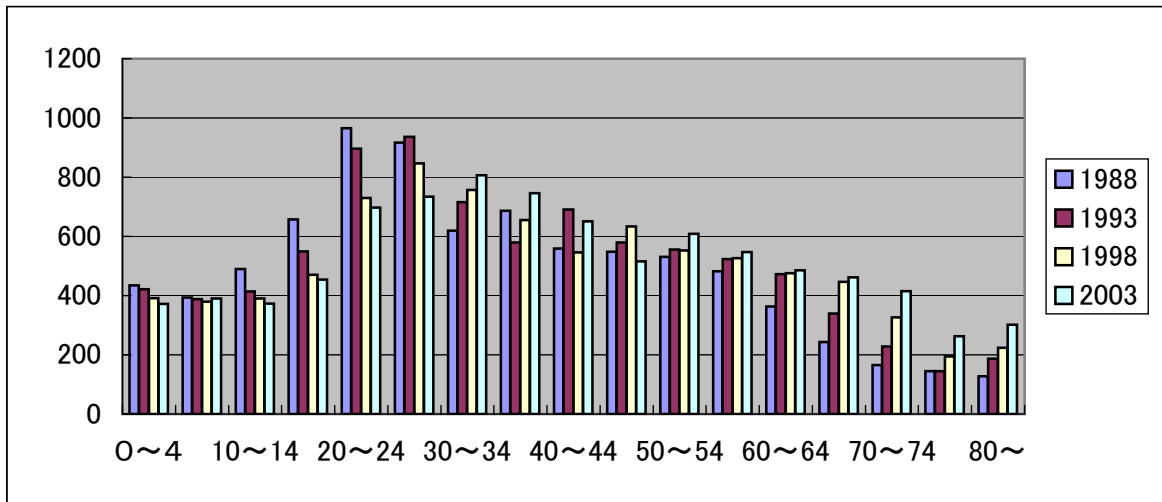


八幡町

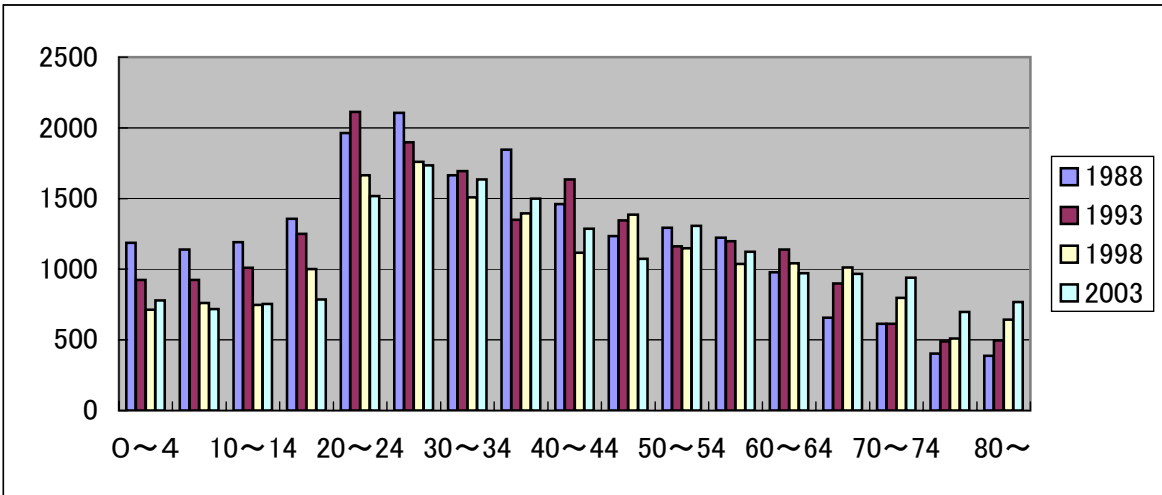


年齢別人口構成の推移（全域は末尾）  
関前・関前分館

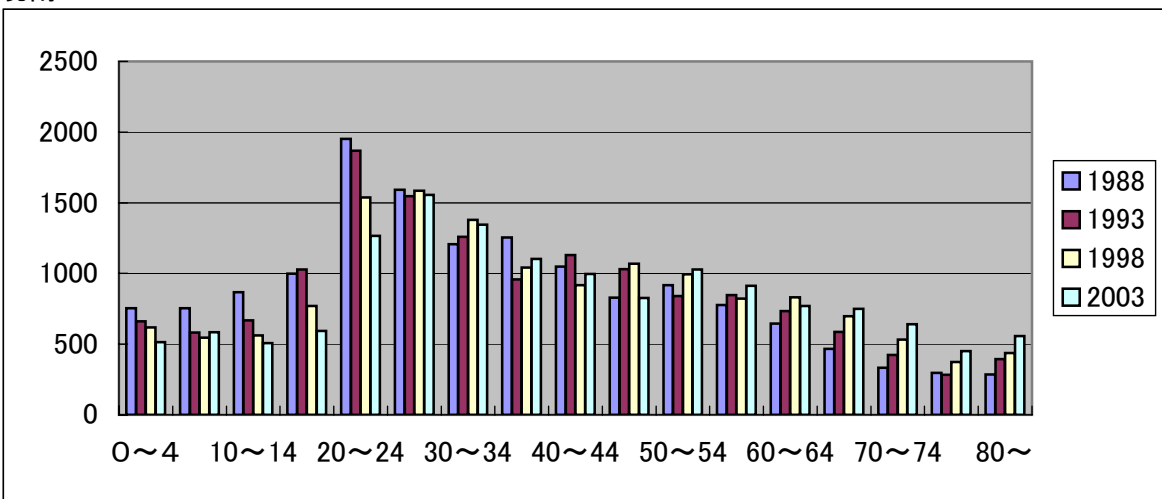
資料②



西部

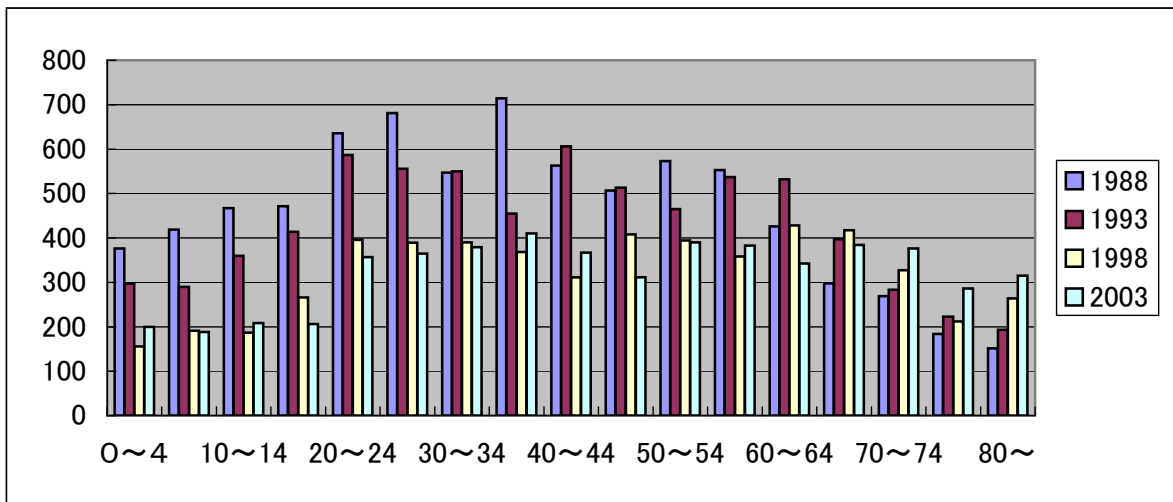


境南

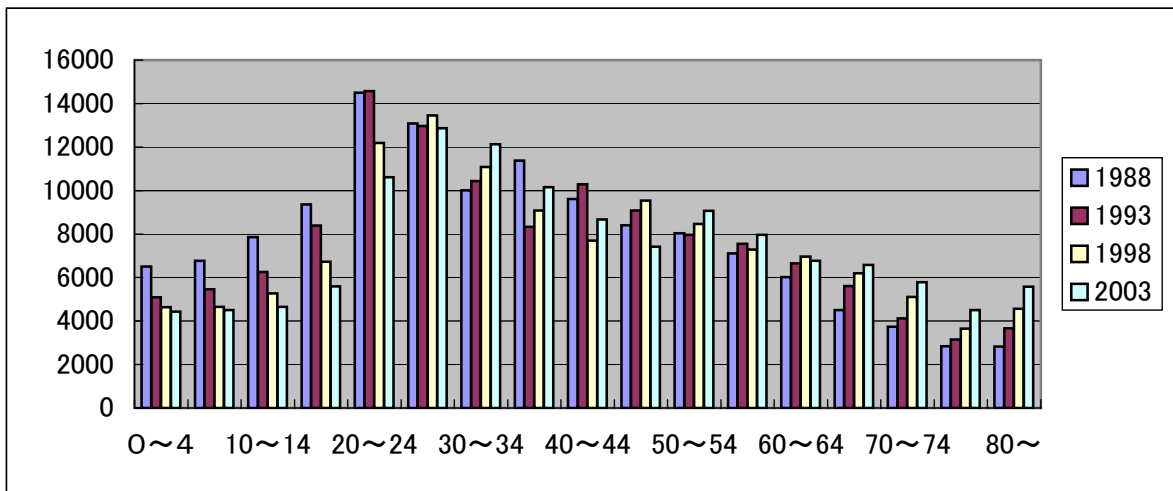


年齢別人口構成の推移（全域は末尾）  
桜堤

資料②



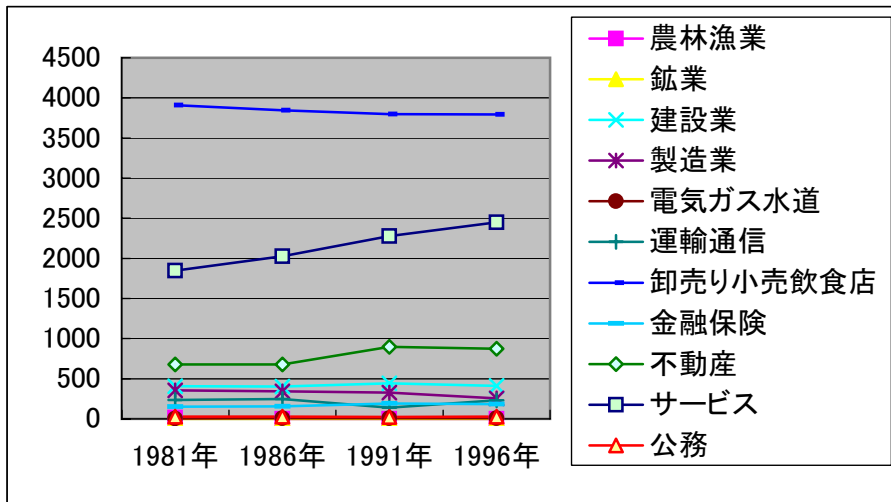
武蔵野全域



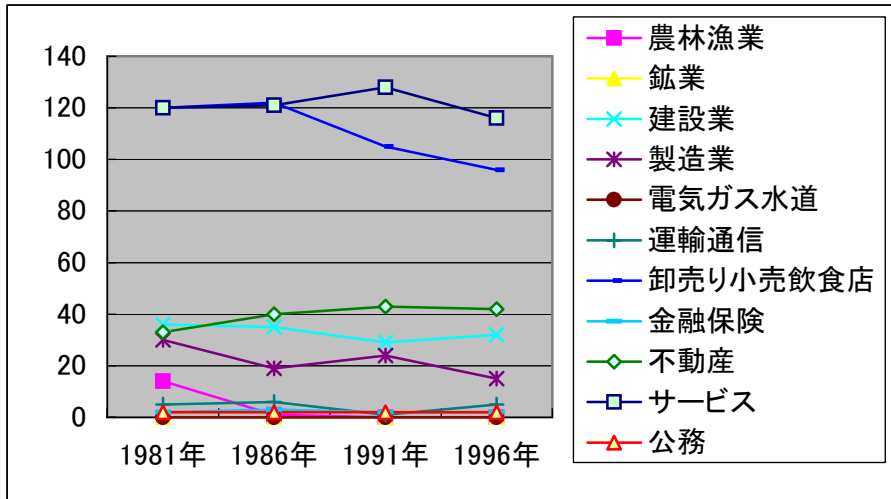
# 産業別事業所数の推移

資料③

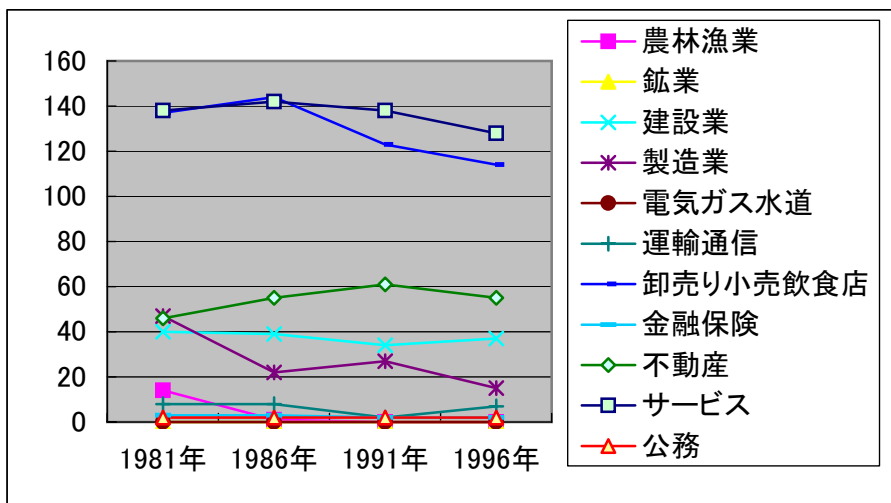
## 武蔵野市



## 吉祥寺東



## 本宿

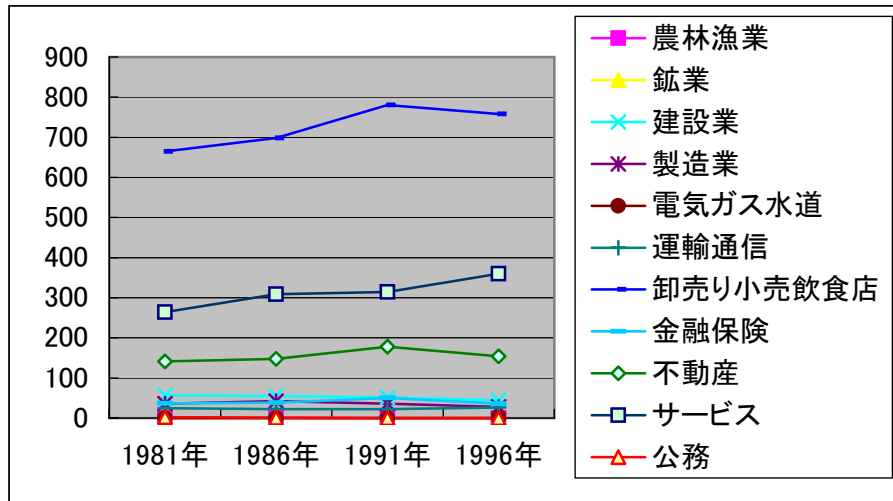




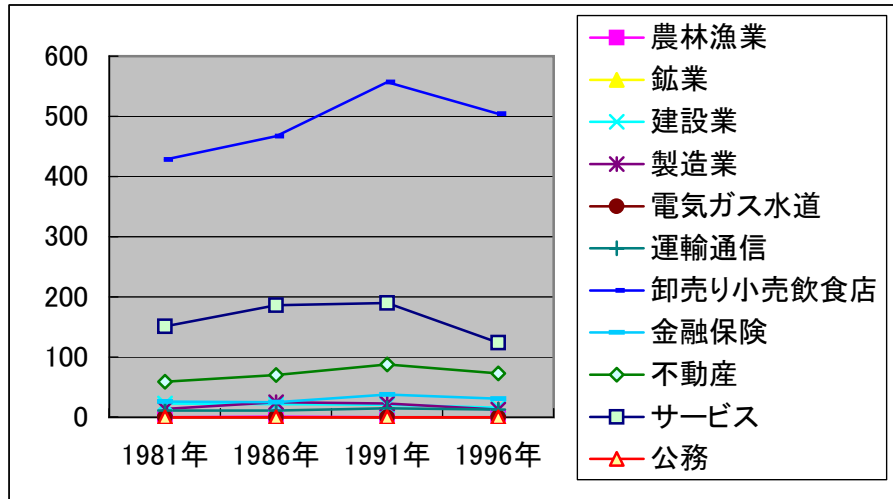
# 産業別事業所数の推移

資料③

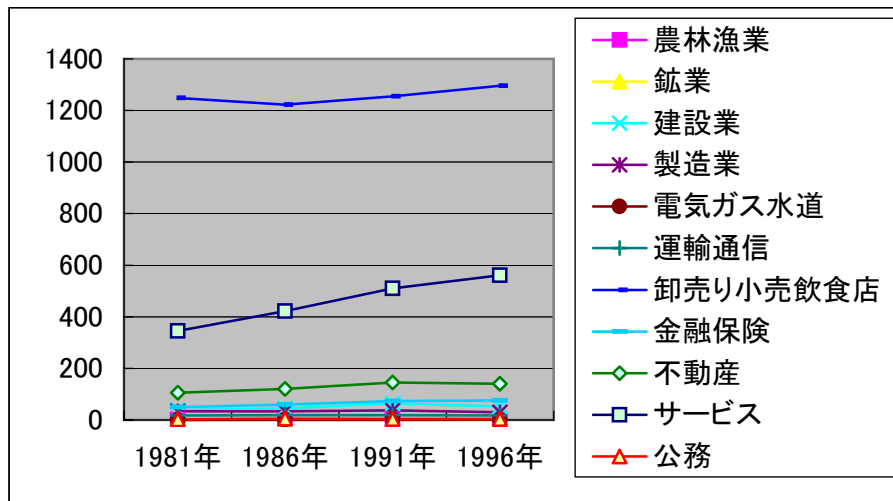
## 吉祥寺南町



## 御殿山



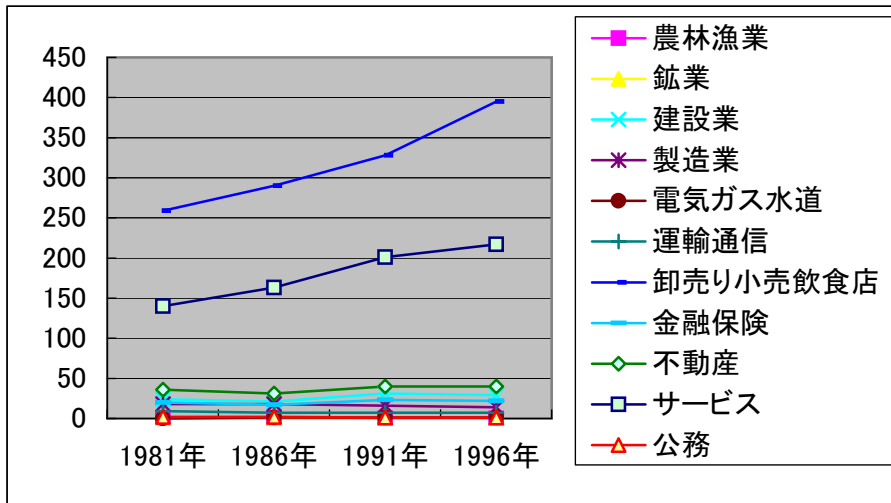
## 本町



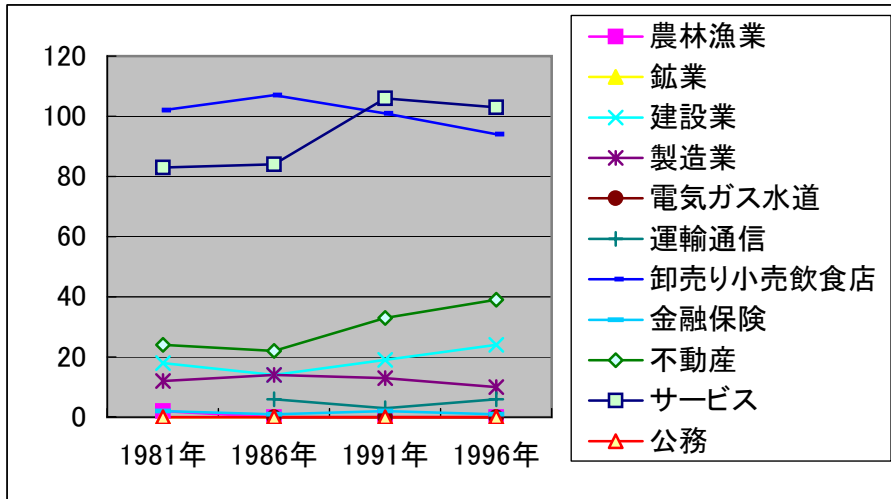
# 産業別事業所数の推移

資料③

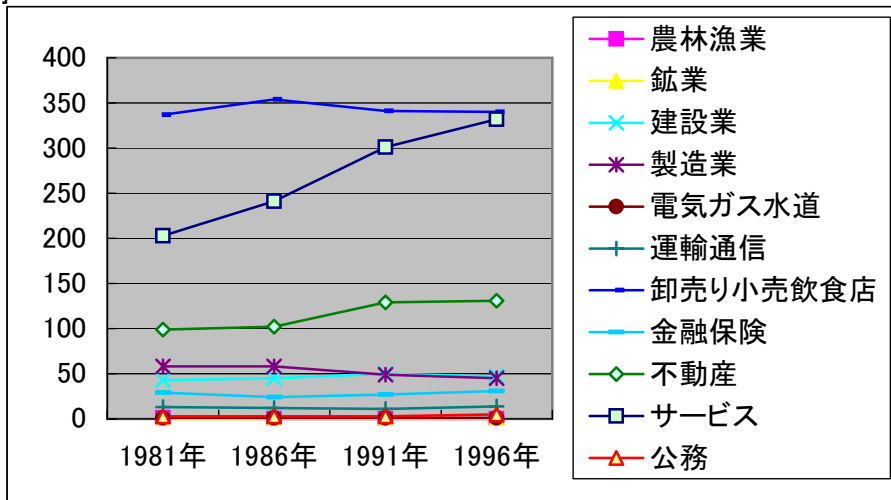
## 吉祥寺西



## 吉祥寺北



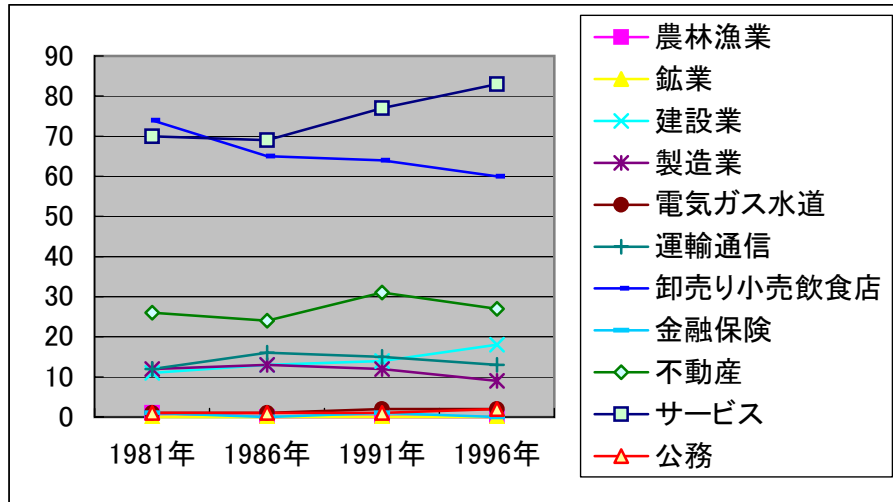
## 中央・中町



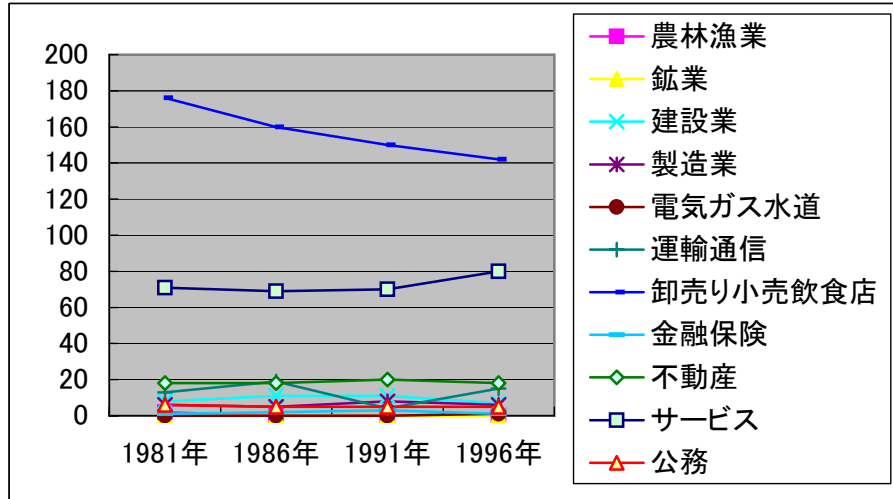
# 産業別事業所数の推移

資料③

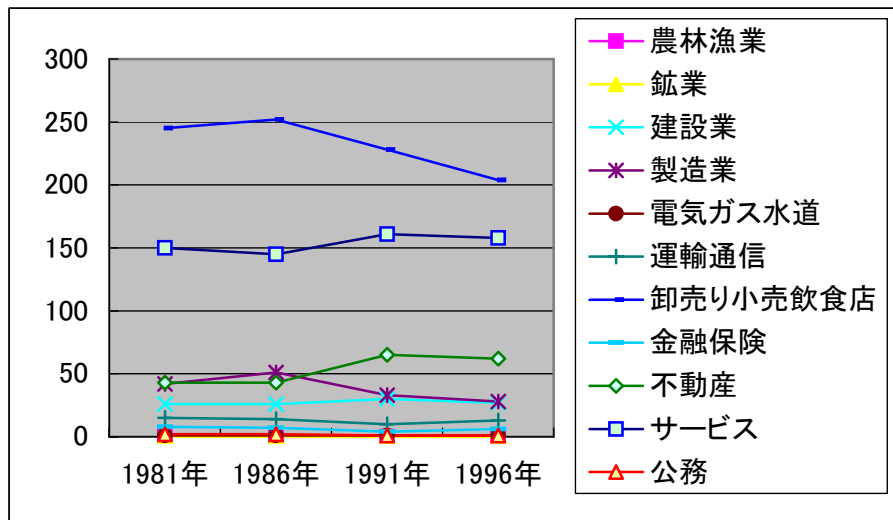
## けやき



## 緑町



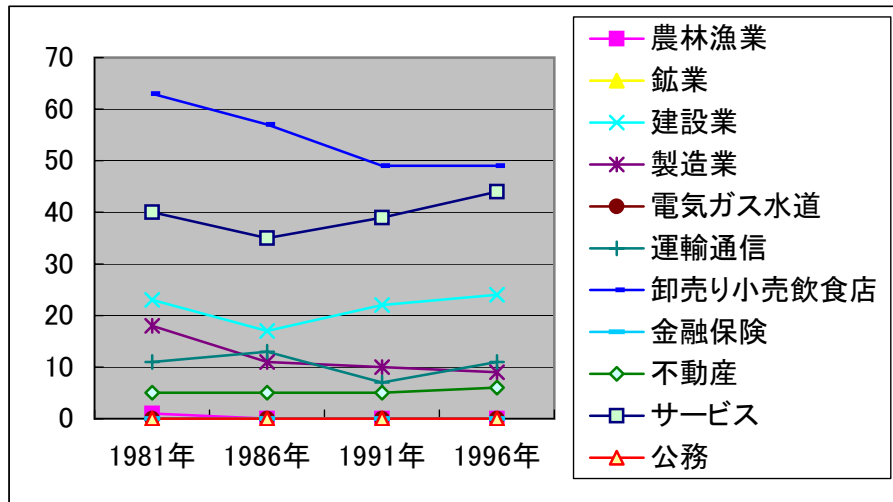
## 西久保



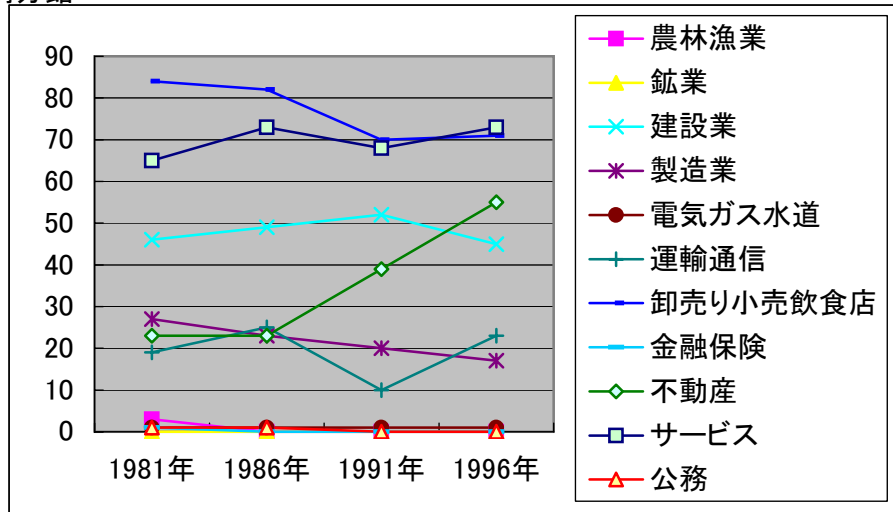
# 産業別事業所数の推移

資料③

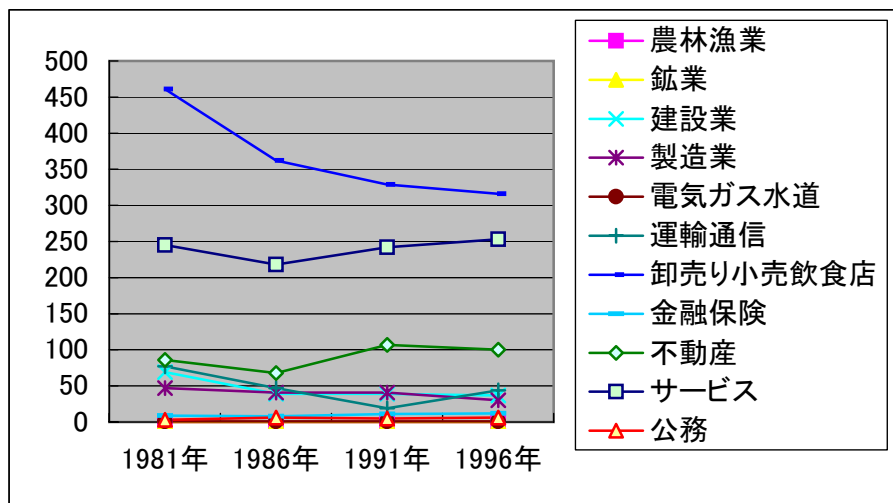
## 八幡町



## 関前・関前分館



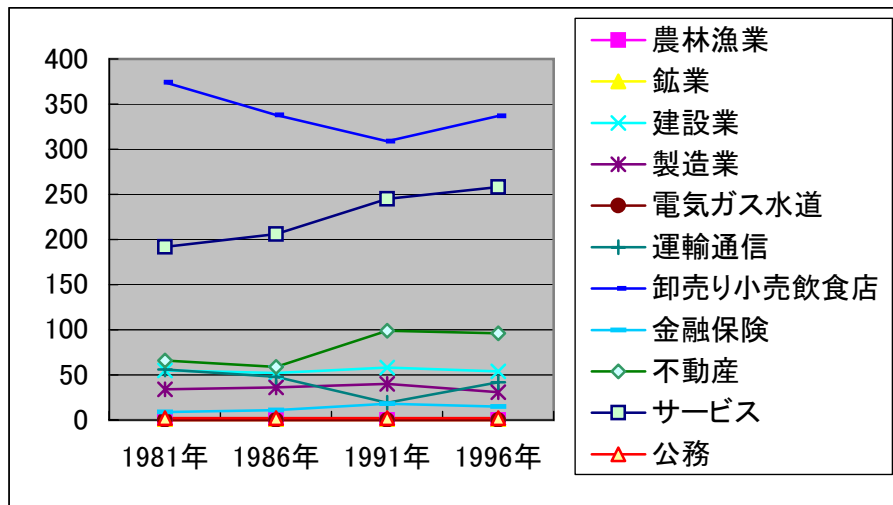
## 西部



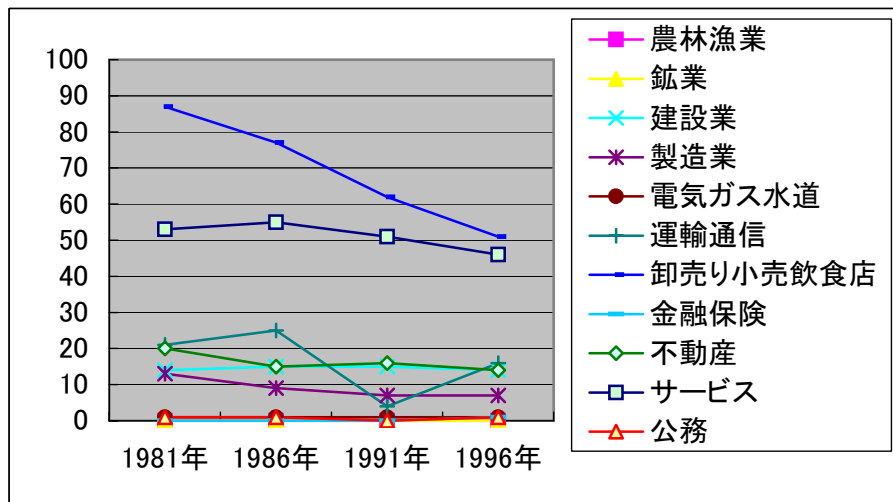
# 産業別事業所数の推移

資料③

境南



桜堤



## (3)市民アンケート調査結果

### 調査の方法

15年9月1日～15年9月28日の間、市内18のコミュニティセンター、市役所及び市政センターで利用者に葉書での協力を求めた。各施設で2,190枚、全体で2,500枚の葉書を配布し、全部で616票の回収を得た。単純に計算して回収率は24.6%であり、類似の調査としては比較的回収率が高かったと考えられる。

### 単純集計結果

Q2. 武蔵野市のコミュニティセンターは、窓口事務も含めて、すべて市民ボランティアによって運営されていることをご存知ですか。

- |        |            |
|--------|------------|
| 1. はい  | 63.6%(392) |
| 2. いいえ | 32.0%(197) |
| 3. 無回答 | 4.4%(27)   |

Q3. この運営ボランティアには誰でも参加できることをご存知ですか。

- |        |            |
|--------|------------|
| 1. はい  | 67.7%(417) |
| 2. いいえ | 28.7%(177) |
| 3. 無回答 | 3.6%(22)   |

Q4. 機会があれば、参加したり、手伝ったりしたいと思いますか。

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1. はい         | 43.0%(265) |
| 2. いいえ        | 26.1%(161) |
| 3. すでにしたことがある | 24.0%(148) |
| 4. 無回答        | 6.8%(42)   |

【あてはまる数字に○をつけてください】

- |     |        |            |
|-----|--------|------------|
| ・性別 | 1. 男性  | 28.1%(173) |
|     | 2. 女性  | 69.5%(428) |
|     | 3. 無回答 | 2.4%(15)   |

- |     |          |            |
|-----|----------|------------|
| ・年齢 | 1. 10代以下 | 5.0%(31)   |
|     | 2. 20代   | 4.2%(26)   |
|     | 3. 30代   | 6.2%(38)   |
|     | 4. 40代   | 7.5%(46)   |
|     | 5. 50代   | 14.3%(88)  |
|     | 6. 60代   | 27.4%(169) |
|     | 7. 70代以上 | 33.4%(206) |
|     | 8. 無回答   | 1.9%(12)   |

・居住地	1. 武蔵野市	79.9%(492)
	2. それ以外	16.1%( 99)
	3. 無回答	4.1%( 25)
・センターの利用頻度		
	1. しばしば	33.8%(208)
	2. よく	37.5%(231)
	3. たまに	25.5%(157)
	4. 無回答	3.2%( 20)
・主に利用する施設（複数回答可）		
	1. ロビー	30.7%(189)
	2. 学習室	8.8%( 54)
	3. 会議室	45.5%(280)
	4. 和室	32.5%(200)
	5. 調理室	6.3%( 39)
	6. 体育館	15.7%( 97)
	7. 音楽室	11.9%( 73)
	8. 他（            ）	13.0%( 80)

## 分析結果のポイント

- ・鉄道路線寄りのコミセン利用者は年齢が若く、コミセンの運営形態についても知らない場合が多い。逆にそれ以外の住宅地のコミセン利用者はその運営形態をよく知っている傾向がある。しかしながら必ずしも鉄道路線寄りのコミセン利用者の参加意欲が低いというわけではない。
- ・武蔵野市に住んでいる人の方が、コミセンをよく知っているし、参加意欲も高い。
- ・おもしろいのは、ロビーや学習室の利用者は若年層に多い傾向があって、一般に若い人ほどコミセンへの参加意欲は低いが、ロビーや学習室を主に利用する人には機会があれば参加したいと答える傾向が見られる。

## 自由回答部分の分析結果

- ・コミセンへの意見は、大きく分けて次の5つに区分することができる。①好意的な評価や意見、②ハード面の施設整備に関する要求や意見、③窓口などの対応に関する意見、④行政に対する要望や意見、⑤ソフト面のコミセン運営に関する要求や意見、⑥その他（評価委員会への要望など）。それぞれの比率は、①33.7%(126)、②14.7%(55)、③10.7%(40)、④3.7%(14)、⑤37.2%(139)であった。
- ・それぞれの主な回答例については、「『市民アンケート調査』自由回答例」の通り。

## 「市民アンケート調査」自由回答例

### ①好意的な意見や評価

最近対応も優しく、若い人が多くめだち、なごやかな雰囲気がいいです。
とても親切にして頂いておりますのでメンバー一同いつも感謝しております。
ロビーで話したり遊んだりできるのですごくいいと思います。
武蔵野市内のコミセンをしばしば利用させて頂いていますが、受付にいろいろな手続きその他いろいろ諸事をやってくさっている方々にいつも感謝の気持ちを持ちます。みなさん親切で大変気持ちよく活動できます。ありがとうございます。
ときどき勉強するのに利用させて頂いています。気楽に使用させて頂けるので助かります。
今までボランティアとは知りませんでした。「パソコン」に来ていますが、とても役に立つ。
コミュニティセンターとはよく理解の上利用しなければ、館の運営管理については関係者の方は苦勞されているようです。私達利用する者は良く理解して協力する必要があると思います。 学童から高齢者まで良く面倒をしてくれていますので感謝しています。
使用料無料でいたれりつくせりのコミセン。老後のいきがいを与えてくれています。
ふれあいまつりが楽しみです。
コンサートや映画を見せていただきました。これからも続けてください。
音楽が大好きな年寄りですが、海外からの演奏家のコンサートには出掛けられない身分。コミュニティセンターでのコンサートは、申し訳ないほど安い入場料で楽しい一時と、家族的な元気をいただき、励みになっています。これからもいろいろな楽器でのコンサートの催しをお願い致します。
夜間遅くまで運営され、大変ありがたく思っています。
夜間 9 時すぎまで使えて無料であるスペースは大変貴重であり、もっと充実させてほしい。スペースをできるかぎり活用して欲しい。
もと武蔵野の住民ですが、気持ちよく利用させて頂いております。感謝しています。
近所にこのような施設があつてとっても助かっています。学習室がとくに。
夜多く利用しているので、遅くまで受け付けでセンターでの利用者への利便を提供して頂いて、感謝しております。
テレビ・ビデオなどの機材を使わせていただけるのが便利です。七夕祭りやお月見など行事に取り組むのも楽しいですね。



武蔵野のコミュニティセンターの活動は大変充実しており沢山の人達やグループ活動が盛んで十分に有効活用されていると思っております。
いろいろな行事、催しをしていていつも感心しております。
日頃の運営、管理本当にありがとうございます。利用者と管理する側の壁を取り払う努力をお願いします。新しいコミセンに変わりつつあることを感じます（窓口の対応が感じの良いものになりました）。
役員の人達の負担が大変なので、なんともっと多くの人で支えられないかと思う。もう少し若い世代が利用するばかりでなく運営にも携わってほしい。このころ、リタイヤした男性がパソコン教室の流れで参加するようになったので大変良いと思う。

### ②施設の整備に関する意見や要望

エレベーターつけてください。
バリアフリー対策において、カウンターが高すぎる。
囲碁の打てる場所（常時）がほしい。
体育館にぜひクーラーを設置してください。
学習室と子ども室を離すとか、もう少し防音を強化してほしい。子どもが遊ぶのはいいことですし、みんなが使えてこそ、公共施設だと思うので、そういう対策をした方が双方にとっていいと思う。
全身がうつる鏡がほしいです。MDデッキをつけてほしい。冷水機も設置してほしい。
レーザーカラオケ設置を要望。
ロビーがなく狭いのが難点です。

### ③窓口対応についての意見

利用者が気持ちよく利用できるような心くばりが欲しい。使わせてやるからお掃除をして、茶殻なども持ちかえれ等などいいたい放題です。
受付の態度が悪い。私物じゃないよ。
窓口がうるさい。新しい人材を。
いつも受付で食べたり飲んだり、しゃべったり（多数で）受付と言うより…見苦しいです。
借りる相手によって対応が違う。空いているのに部屋を貸してくれない。こども（小学生）は話し合いのため部屋を借りたかったのに、「子供は外で遊べばいいでしょ」といわれ、全然相手にしてくれない。ものすごくショックでした。
コミセンにより受付の態度はそれぞれですが、今少し勉強してほしい。下を向いてひとりごとのような話にならない。はっきり話して欲しい。顔を見てはっきりと。

窓口事務員が規則をたてに使用時間をきびしく言いすぎる。
窓口の人に利用の仕方を聞くと、「そんなこともわからないの」とばかりの冷ややかな対応で悲しくなったことがたびたびある。逆にとてもいねいに教えていただき、ホッとしたこともある。

#### ④行政に対する要望

コミュニティセンターは地域の中にあるので、地域福祉の一端として老人福祉・障害者福祉などの相談その他気楽に話ができる関係ができればよいと思う。
センターの運営費が多すぎます。もっと減らす必要がある。
市民ボランティアによらず市の運営でコミセンを市民館にしてほしい。
コミセンが市の関連する事業、企画の場所として使われることがいろいろあるみたいですが、見なおし、整理したほうが良いと思います。地域の団体、グループ個人の活動の場所であるべきです。
もう少し予算が欲しいと利用者が言っているのを耳にしたことがあります。

#### ⑤運営に関する苦情や意見

各コミュニティそれぞれ受け付けの仕方がちがっているので戸惑うことが多くあったので困った。申し込み方も分かれているのでむずかしい。
中学校主催の行事などはできるだけ中学校内で実施するようにしてもらいたい。学生の自主学習はコミセンで行うべきではない。
10時くらいまでにしてほしい。
長年任期がない制度が多いコミセンが多く、関係者の考えが偏りすぎている所がある。市民が誰でも運営に参加できるのであれば、任期を定め、経営運営方針を新たな風を吹き込める様にするべき。若年の人々に活力ある運営を望みたい。
酒好きな委員だと、何かにつけて二次会、全部コミュニティ持ち、お金を出したがない。飲食にどの程度とキッパリ予算を決めてほしい。
五人以下の団体でも使わせていただきたい。
コミセンでの葬儀は止めて欲しい。
葬式ができるよう依頼致します。
子供たちが参加できる活動をふやしてほしい。
運営委員の交代を考えてください。
月3回利用できるといいなあと思います。
各コミセンにそれぞれ規約規則があると思うが、一般利用者にも内容を説明し、理解していただいて、気持ちよく使わせてください。利用者の使用にもわがままな点はあると思う。

<p>開館をAM9時からにしてほしい。仕方がないかもしれないが、コミセンによって活動の内容に偏りがある。</p>
<p>空き室がある場合は、その間に2～3人でも貸して欲しい。</p>
<p>私物化に近い状態（1～2人くらいの強い意見）で運営するのは好ましくない。利用者を見下さないで欲しい。和やかな雰囲気の委員会ではなかった。若い人は嫌気がさして長続きできません。</p>
<p>子供室があるのに、たまに子供嫌いのお年寄りから嫌味や苦情を言われます。もっと子育てのしやすい施設や環境を作ってください。</p>
<p>親子広場の利用者が少ない上、遊具が衛生的に管理してもらえているのか気になります。他だ場所を提供するだけのことなら、やめたほうがよいのでは。役員さんが個人的に便宜をはかって部屋を抑えることがあるみたいでやめてほしいです。</p>
<p>団体利用を原則としているようですが、ホワイトボードに書かれた利用状況を日々見ていると、利用率は低いのでは。誰もがもっと自由に出入りできるような雰囲気を作って欲しいです。</p>
<p>自由に出入りできる雰囲気は良い。各室は、団体で利用することを原則としているようだが、聞くところによると、1団体月に2回までしか使えないらしい。これは利用率を高めるためにも少ないのでは。</p>
<p>窓口事務は時給で働いているのではないですか？ボランティアということは、無報酬で奉仕活動をする人ということではないですか？</p>
<p>パソコン講習は月四回あるわけですが、他の部門は月2回です。これは不公平です。全部四回は無理でしたら、3回にすると何か方法を考えて欲しいですね。</p>
<p>街づくりについて、もっと地域の声を吸い上げ発言して欲しい。コミセンの運営でよしとしている所がある。市政に市民の協働について努力が必要だ。</p>
<p>どのコミセンでも、小人数（たとえば2～3人）位から貸してほしい。借りる時間を2～3時間に分けて沢山の人が使えるようにして欲しい。</p>
<p>夜9時半までなのに、8時55分に放送が入り、9時には退館せねばならない。9時20分まで使用できたら、ありがたい。なんとかならないものでしょうか</p>
<p>申し込みを電話でできるように検討してみてください（後日、OKの場合のみ申請に行く）。</p>
<p>場所取りのため遠方からくるのは若い方ならよいのですが、寒いときつらい。</p>

# コミュニティ評価委員会

## 報告書

平成16年3月15日発行

事務局 武蔵野市企画政策室市民活動センター  
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町 2-2-28

電話 0422-60-1830

FAX 0422-51-5638

Eメール [cnt-siminkatsu@city.musashino.tokyo.jp](mailto:cnt-siminkatsu@city.musashino.tokyo.jp)